



平成 28 年度

---

男女共同参画に関する市民意識調査

---

報 告 書



東 御 市

# 調査の概要

## 1 調査の目的

平成 24 年 3 月に策定された「東御市男女共同参画推進基本計画」は、実施期間が平成 24 年から平成 33 年までの 10 年間となっており、5 年後に見直しを行うこととなっております。

この調査は、今年度計画策定から 5 年目の見直しを行うにあたり、市民の皆さんの「男女共同参画」に関する意識をお尋ねし、後期計画策定の基礎資料とすることを目的としています。

## 2 調査対象

東御市在住の 20 歳以上の男女 1,800 人（無作為抽出）

## 3 調査方法

郵送にて、配布および回収を行いました。

## 4 調査時期

平成 28 年 4 月 28 日（木）～平成 28 年 5 月 20 日（金）

## 5 回収結果

(1) 回収数（率） 721（40.1%）

(2) 有効回収数（率） 720（40.0%）

## 6 調査結果の集計・表示方法および数値等の取り扱い

(1) 百分率（%）は小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記しています。このため 100%にならない場合があります。

(2) 回答の比率はその設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問はその回答割合を合計すると 100%を超える場合があります。

(3) 設問においては、回答項目の「その他」に記載欄を設けているもの、および回答理由をお願いしたものがあります。また、「その他」については、一部回答を載せています。

# — 目 次 —

## 調査の概要

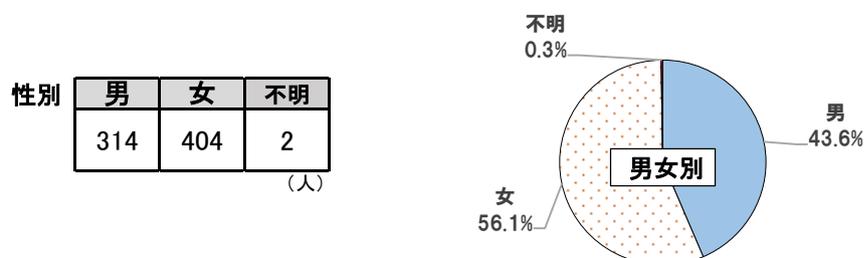
## 調査結果

質問 1	あなたの性別はどちらですか。 .....	1
質問 2	あなたはおいくつですか。 .....	1
質問 3	あなたは、結婚していますか。 .....	1
質問 4	あなたにはお子さんがいますか。 .....	2
質問 5	あなたはどんなお仕事をされていますか。 .....	2
質問 6	「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。 .....	3
質問 7	家庭生活において、下記のような状況があると思われるものをお選びください。 .....	4
質問 8	「男のくせに」「女のくせに」という言葉をつかいますか。 .....	4
質問 9	あなたは、平日をどのように過ごしていますか。 .....	5
	1日をどのように割り振っているか、次のアからオの項目ごとに当てはまる大まかな時間の番号を下から1つずつ選んで記入してください。	
質問 10	現在、生活を営む上で男女の社会的立場は平等になっていると思いますか。 .....	7
質問 11	問10で、2~5と答えた方にお聞きします。 .....	8
	平等でないと思う分野は次のどれですか。	
質問 12	子どもの出生率が減少傾向にありますが、その理由は何であると思われますか。 .....	9
	次の中からあなたのお考えに近いものを選んでください。	
質問 13	男女共に働きながら子育てするには、何が必要だと思いますか。 .....	10
質問 14	男性が育児休業をとるには、何が必要だと思いますか。 .....	11
質問 15	(1) 現在、どのような地域活動をしていますか。 .....	11
	(2) 新に参加してみたい活動はなんですか。 .....	12
質問 16	女性がもっと審議会や委員会などの政策方針決定の場に参画する必要があると思いますか。 .....	13
質問 17	区の役員やPTAの役員に推薦されたらどうしますか。 .....	13
質問 18	問17で「2~4」と答えた方はどんな理由からですか。 .....	14
質問 19	一週間の労働時間は、合計何時間くらいですか。(家事労働を抜いた時間) .....	15
質問 20	問19で「2~7」と答えた方にお聞きします。 .....	15
	あなたの職場は、次のどんな仕組みが整っていますか。	
質問 21	今は男女ともに育児休暇を取ることができます。あなたは子どもの出世後に「育児休業」をとりましたか。 .....	16
質問 22	仕事に関するご自分の希望をお尋ねします。 .....	16
質問 23	女性が働く上での障害は何だと思いますか。 .....	17
質問 24	女性の管理職が少ないのは何故だと思いますか。 .....	18
質問 25	女性が働き続けるために最も必要な事はどんな事だと思いますか。 .....	19
質問 26	自分の老後に不安がありますか。 .....	20
質問 27	あなたは現在誰かの介護をしていますか。 .....	21
質問 28	男女間(夫婦・パート間)における下記のような暴力を受けた経験がありますか。 .....	22
質問 29	問28で「ある」と答えた方にお尋ねします。誰かに相談しましたか。 .....	23
質問 30	今後、男女共同参画の推進のために必要なことは何だと思いますか。 .....	24
質問 31	次の条令や計画があることを知っていますか。 .....	25
質問 32	次の内容を知っていますか。 .....	
	ア ワーク・ライフ・バランス .....	25
	イ 子育て支援事業 .....	26
	ウ 介護保険サービスや高齢者福祉サービス .....	26
質問 33	男女共同参画推進関連学習会・講演会に参加したことがありますか。 .....	26
質問 34	男女共同参画に関する諸外国の動向や国際比較に関心がありますか。 .....	27
その他のご意見	.....	27

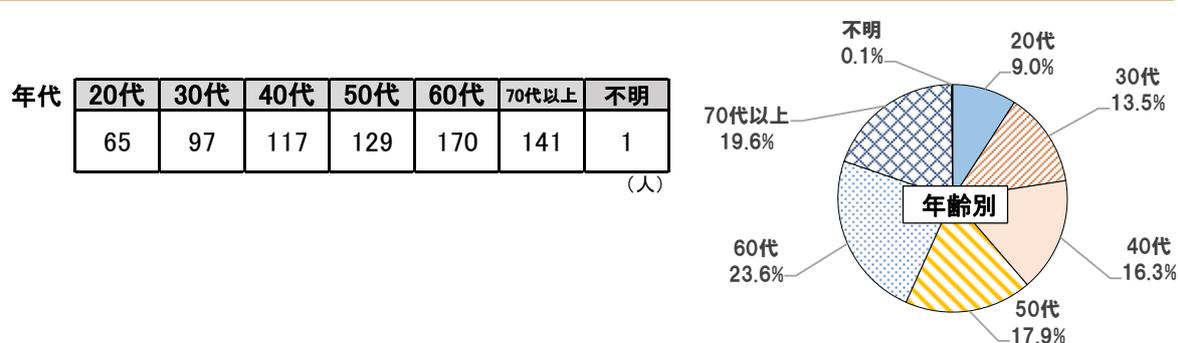
# 一 調査結果 一

## あなたご自身のこと

質問1 あなたの性別はどちらですか。 (回答者数 720人)



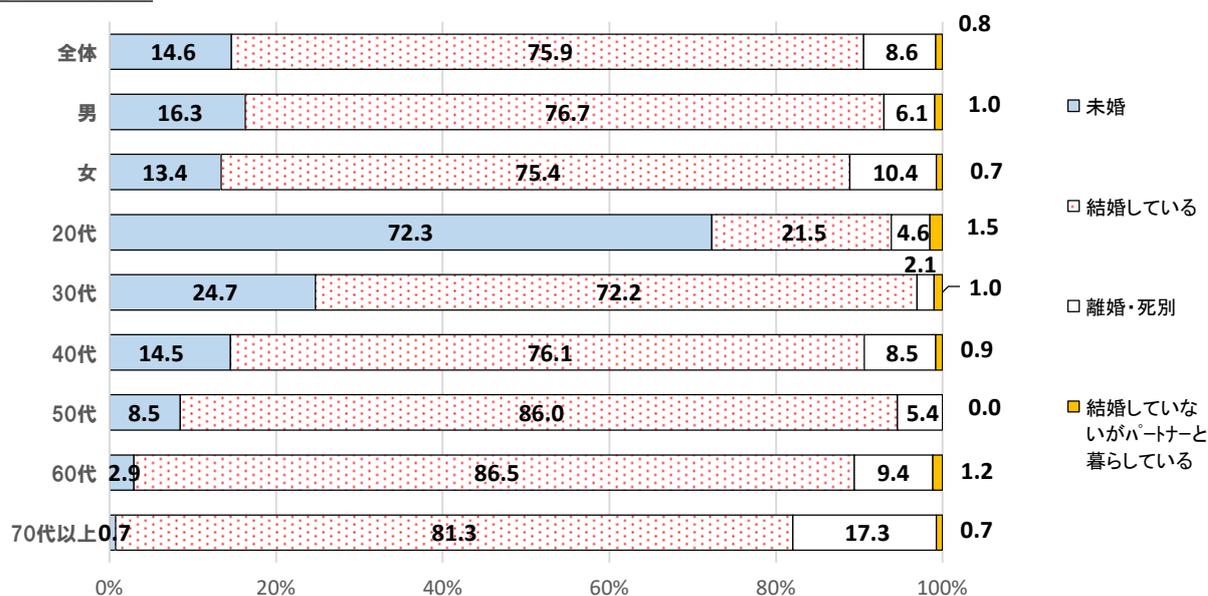
質問2 あなたはおいくつですか。 (回答者数 720人)



年齢構成については、60代を中心に、70代以上、50代と多くなっている。

質問3 あなたは、結婚していますか。 (回答者数 718人)

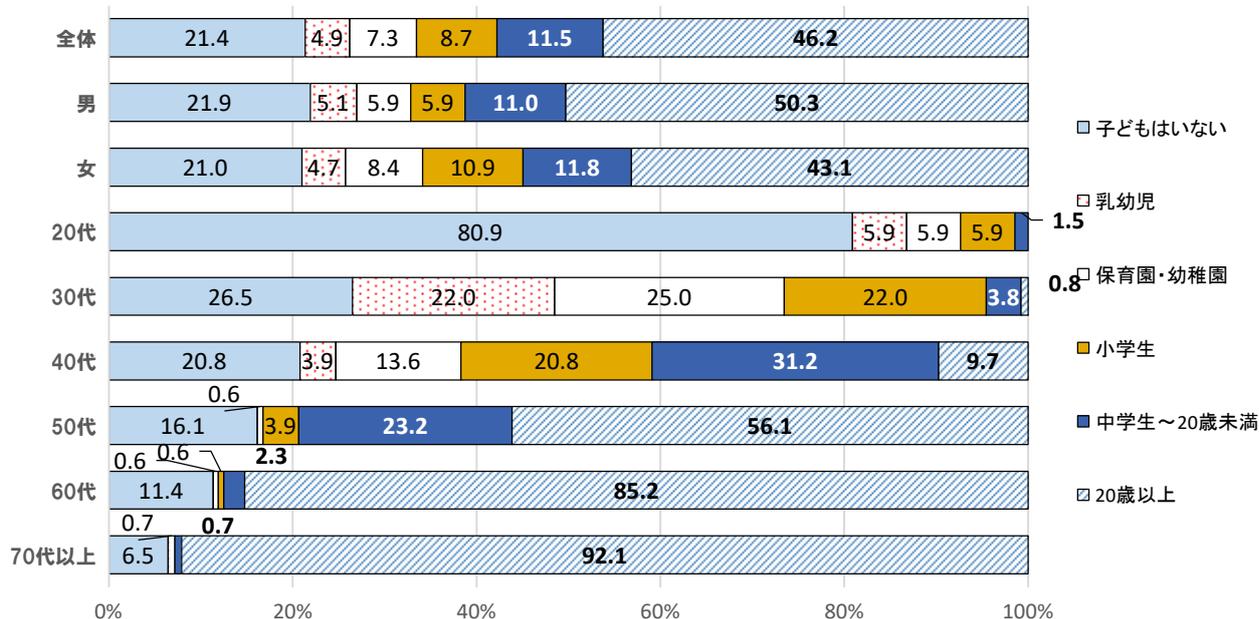
性別・年代別 (%)



質問4 あなたにはお子さんがいますか。(複数回答可)

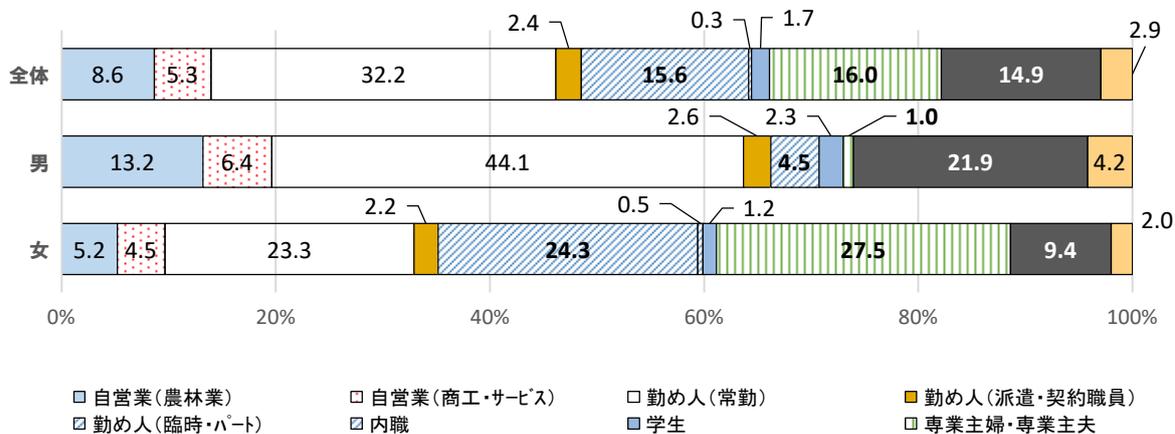
(回答者数 712人、回答数 824件)

性別・年代別 (%)



質問5 あなたはどんなお仕事をされていますか。

(回答者数 717人)



【その他】

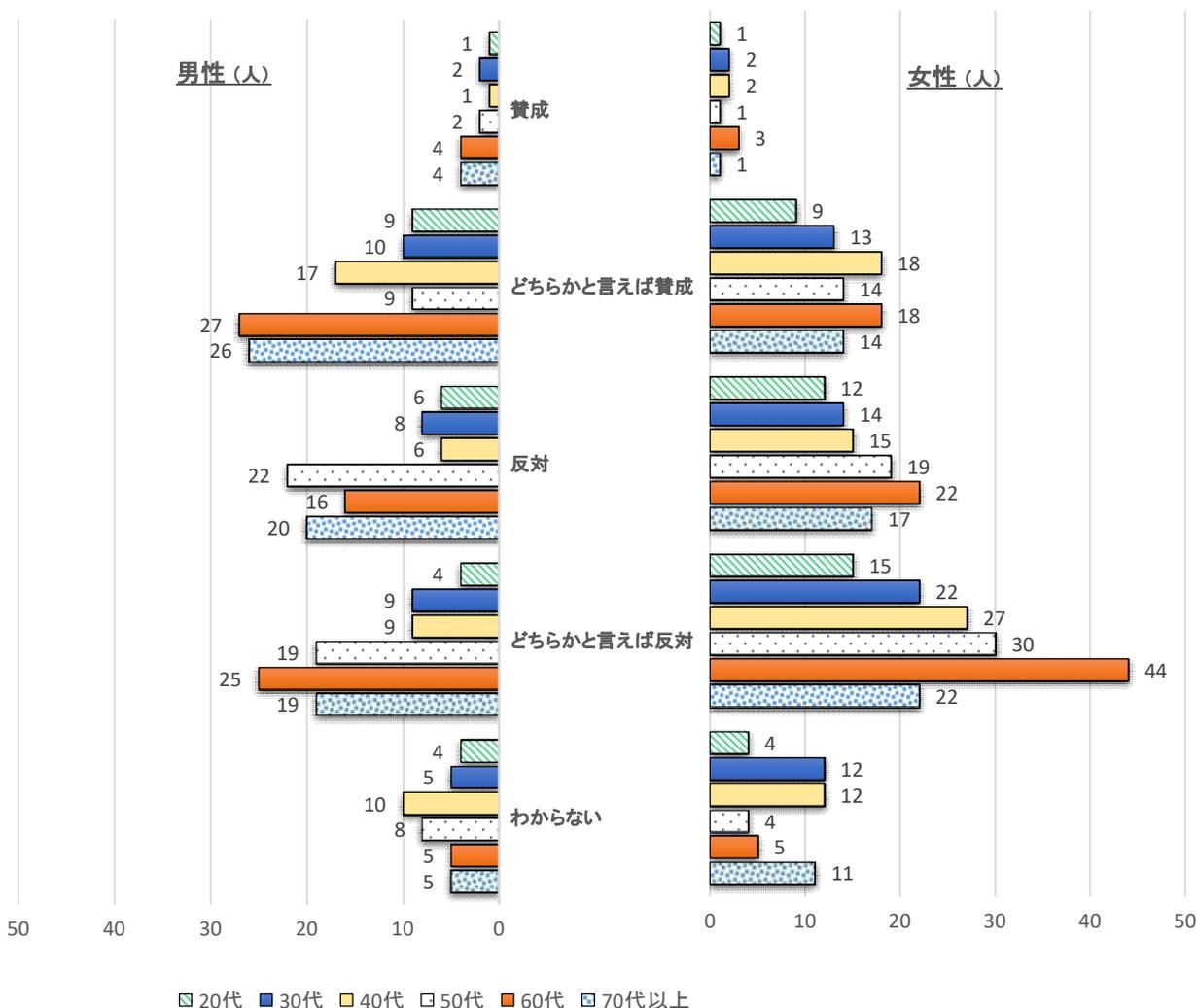
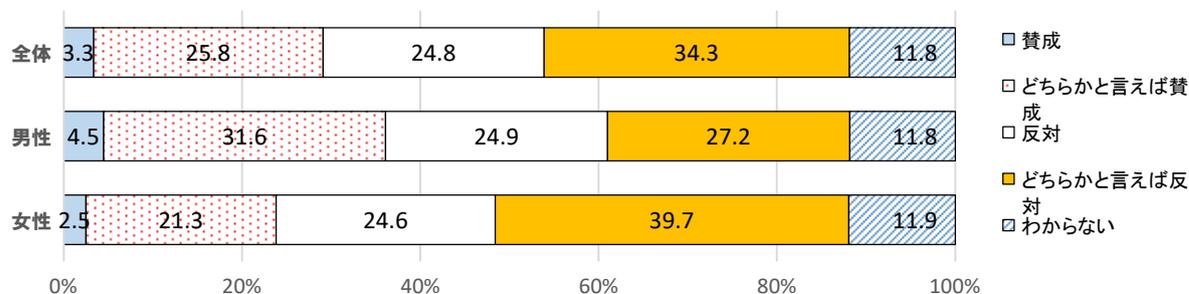
- ・建設業 3人、自営業(建設) 2人
- ・常勤(現在育休中)
- ・自営業(開業医)

男性は自営業、勤め人(常勤)を合わせると63.7%に対し、女性は33.0%と低い。女性は専業主婦27.5%および臨時・パート24.3%と比率が高い。

## 家庭生活について

質問6 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。 (回答者数 718人)

性別・年代別 (%)

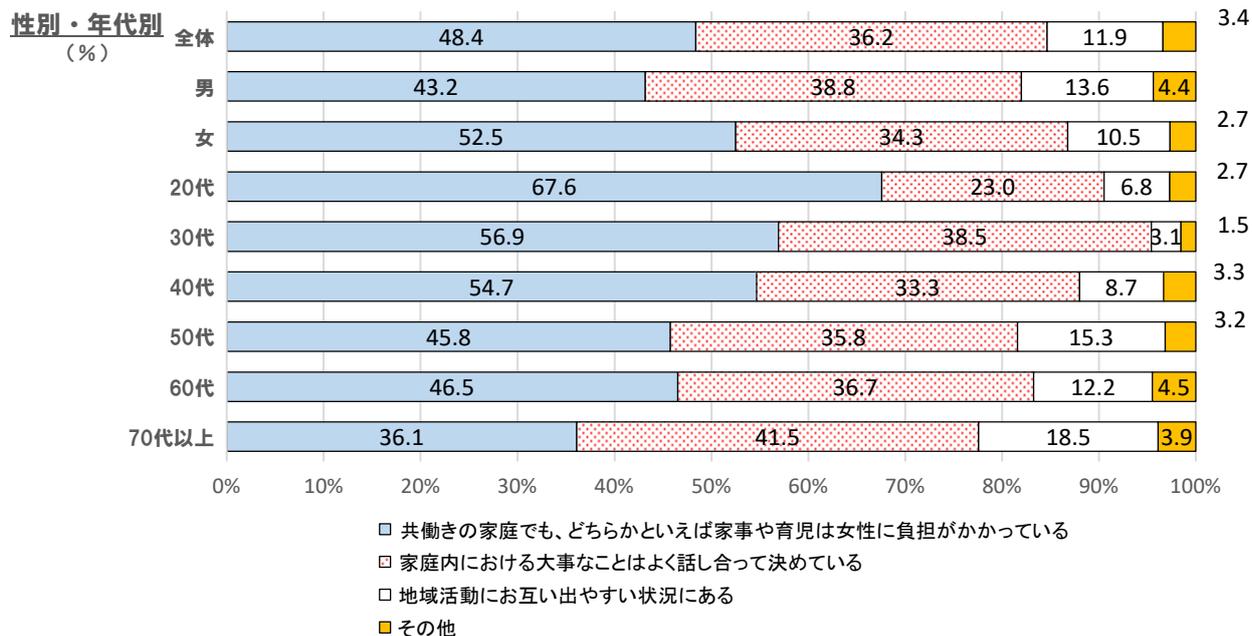


「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と答えた人の割合は全体で29.1%。性別で見ると男性が36.1%で女性が23.8%である。前回、平成21年度調査では全体で38.7%。性別で見ると男性が49.1%で女性が30.5%であった。全体では9.6%低くなり、男女差も18.6%から12.3%と少なくなっている。

60代女性は「どちらかと言えば反対」と考えるが多いが、60代、70代以上の男性は「どちらかと言えば賛成」という考えも多く、大きく二分する。

質問7 家庭生活において、下記のような状況があると思われるものをお選びください。(2つ以内)

(回答者数 696人、回答数 996件)



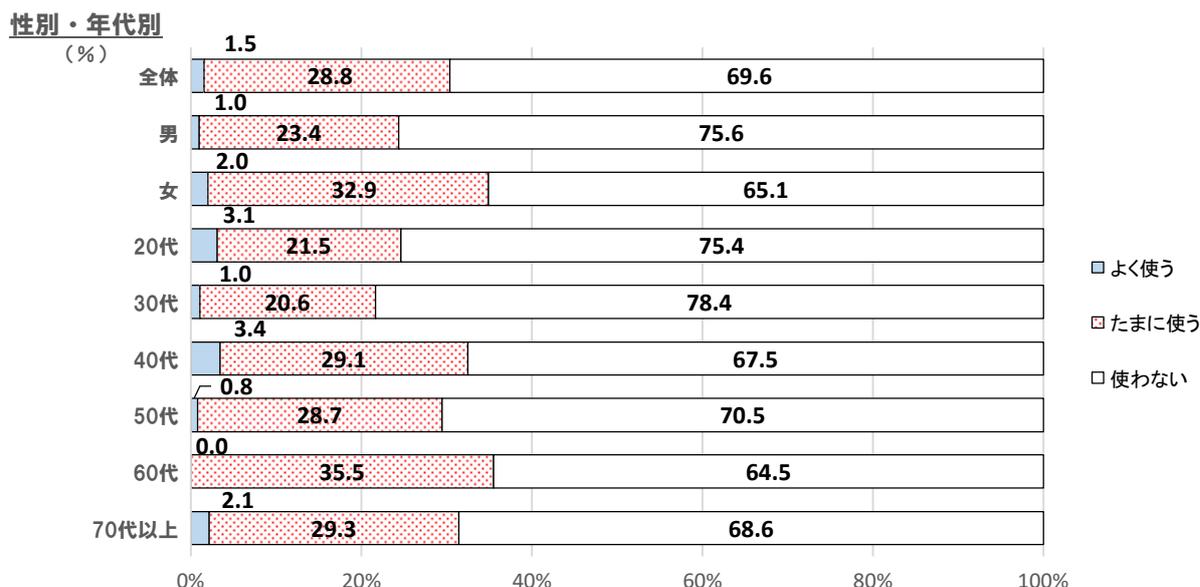
【その他】

- ・暗黙の了解で、役割分担ができています。
- ・昔の風習があるので、どちらかといえば出にくい。
- ・女性はどんなに忙しい時でも子育てと家事をしなくてはならず、男性は協力してくれないのが普通。

男女共に「共働きの家庭でも、どちらかといえば家事や育児は女性に負担がかかっている」と考える人が多い。また若い世代ほど多く、男性より女性の方がそう考える人が多い。  
70代以上では、「家庭内における大事なことはよく話し合っている」が最も多い。

質問8 「男のくせに」「女のくせに」という言葉をつかいますか。

(回答者数 718人)

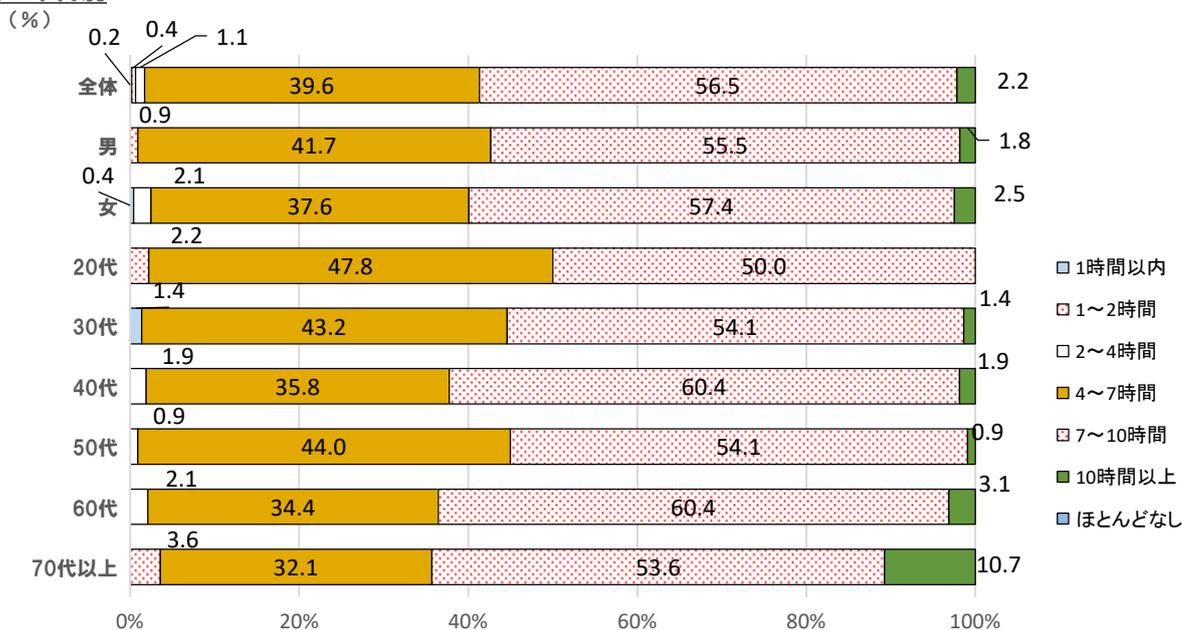


「よく使う」「たまに使う」は全体で30.3%。性別では男性24.4%、女性34.9%で女性の方が10.5%多い。  
平成21年度調査では全体で37.1%、男性は34.4%、39.2%で、それぞれ今回の調査の方が低くなって

質問9 あなたは、平日をどのように過ごしていますか。  
1日をどのように割り振っているか、次のアからオの項目ごとに当てはまる大まかな時間の番号を  
下から1つずつ選んで記入してください。

ア 睡眠・食事等 (有業者回答数 458人)

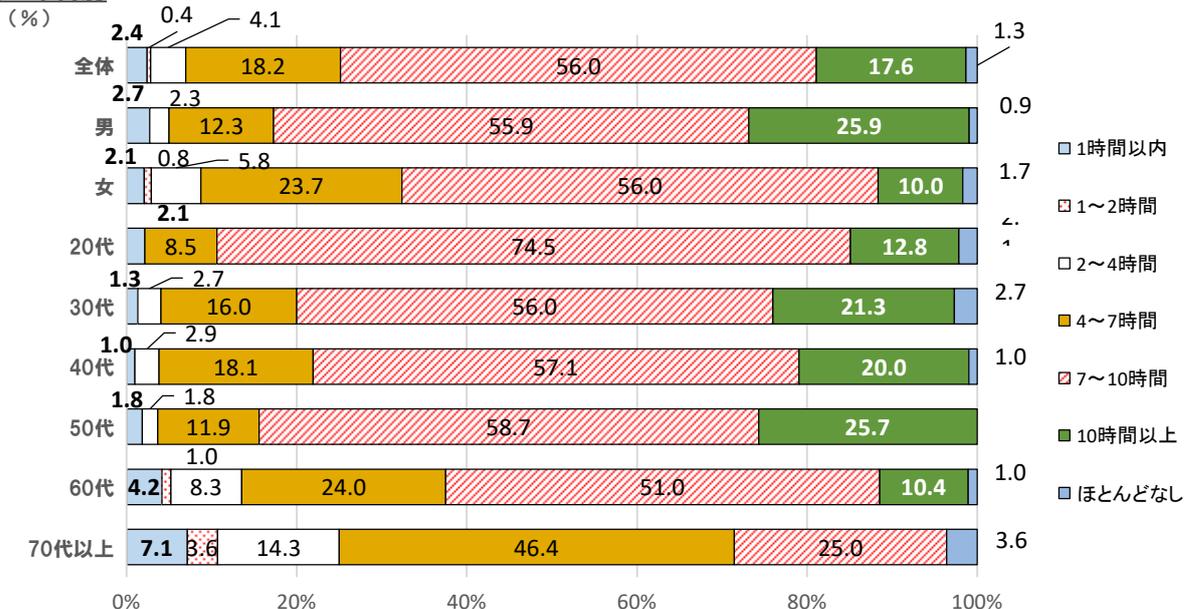
性別・年代別



どの年代および性別も「7~10時間」が最も多いが、20代に関しては、「4~7時間」と「7~10時間」が大きく二分している。

イ 仕事・通勤等(自営業を含む) (有業者回答数 459人)

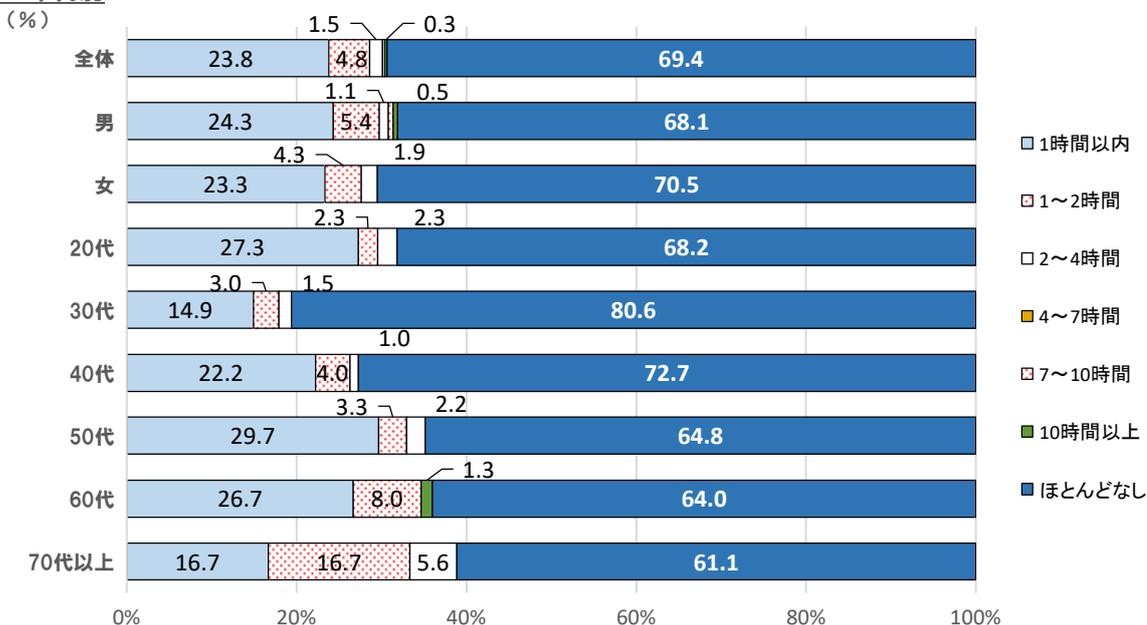
性別・年代別



どの年代および性別も「7~10時間」が最も多い。そんな中30代、40代、50代および男性の「10時間以上」が多いのも気になる。ワーク・ライフ・バランス上手く取れているだろうか....

## ウ 学業の時間 (有業者回答数 393人)

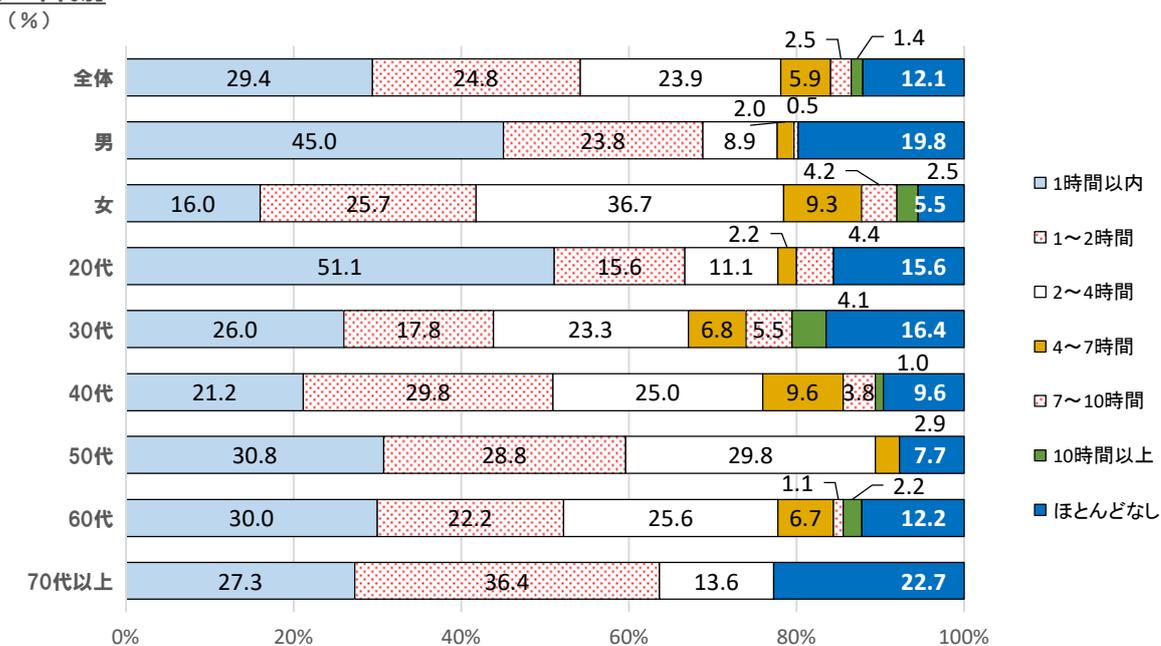
### 性別・年代別



どの年代および性別でも「ほとんどなし」が多い中、「1時間以内」が50代29.7%、60代26.7%とあり、シニア世代の少しでも学びたいという気持ちが伺える。

## エ 家事・育児・介護等 (有業者回答数 437人)

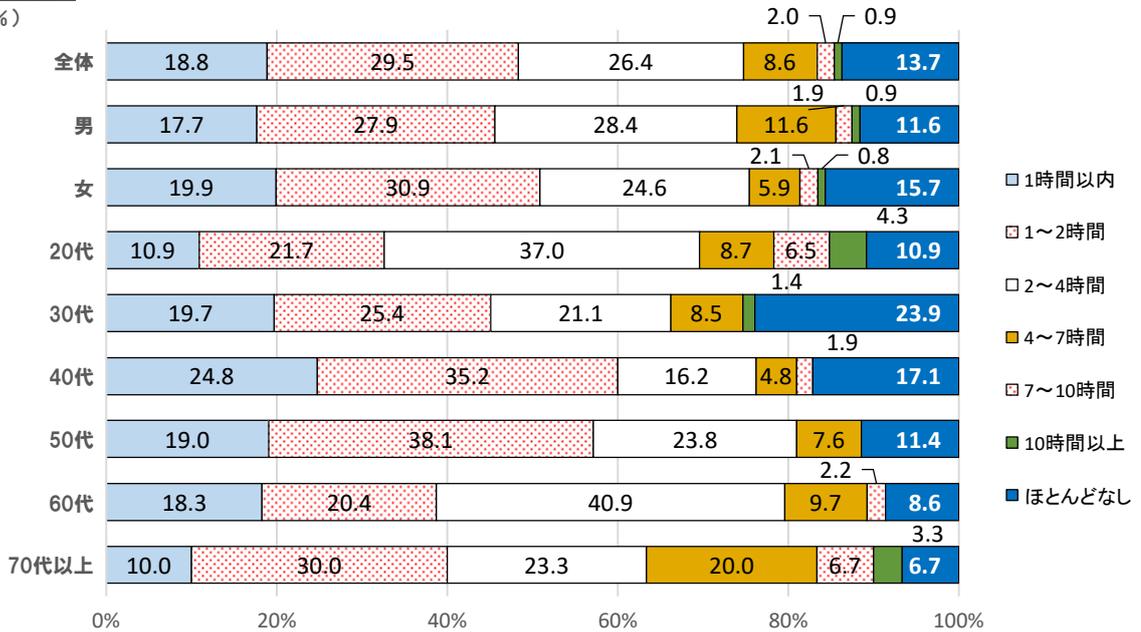
### 性別・年代別



男性は「1時間以内」が最も多く、女性は「2~4時間」が最も多い。

オ 自由時間(趣味、自己啓発等の時間) (有業者回答数 449人)

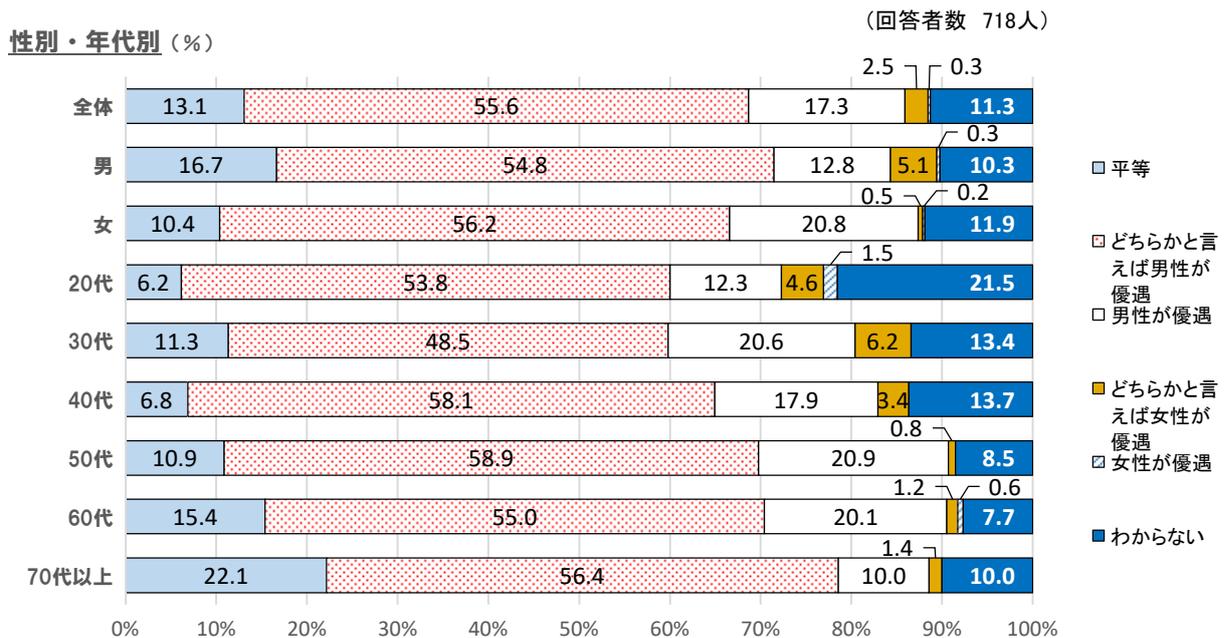
性別・年代別 (%)



30代の割合では、「ほとんどなし」が23.9%と最も多い。仕事、育児、家事等日常に追われ、なかなか自分の時間を持つことは難しいのか...

男女平等について

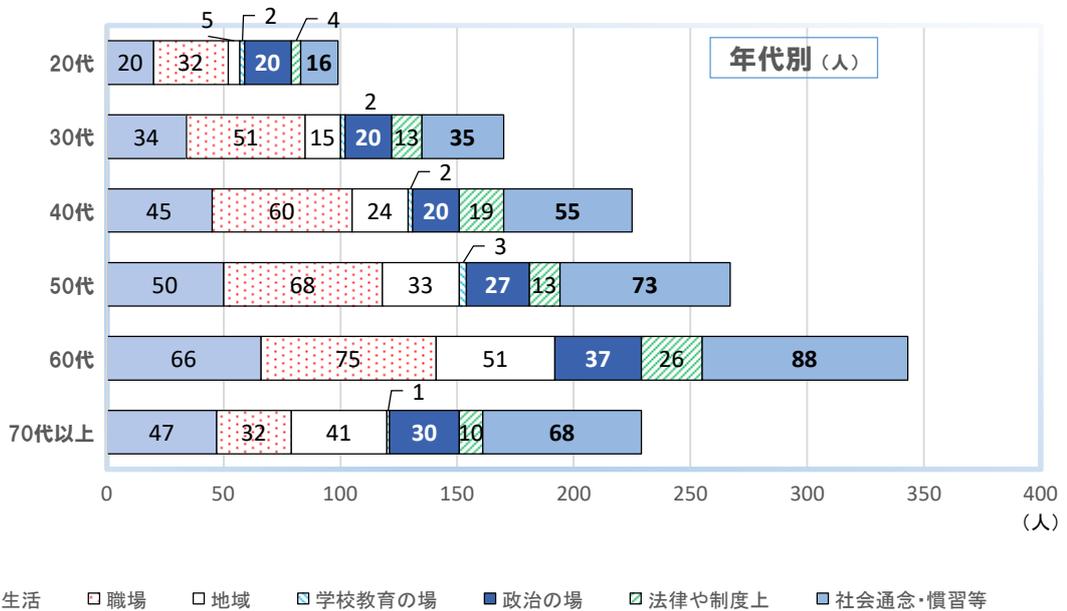
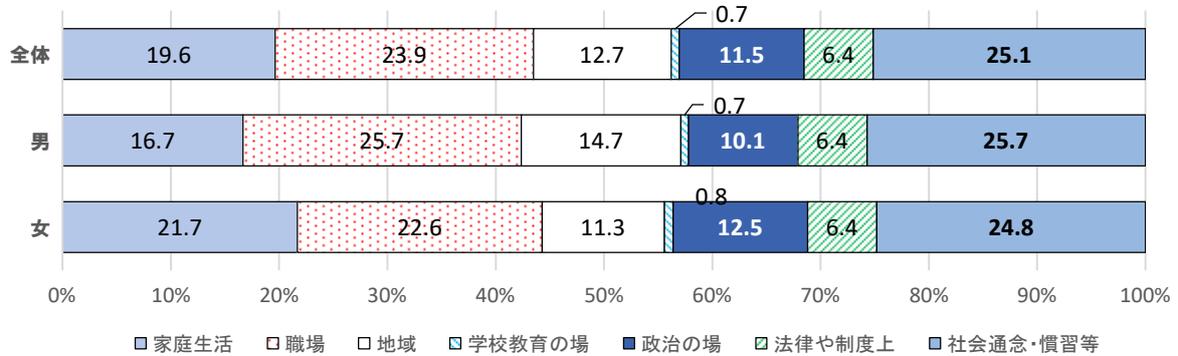
質問10 現在、生活を営む上で男女の社会的立場は平等になっていると思いますか。



「平等」と考える人は70代以上が多い。「男性が優遇」と考える人は、女性が多く、特に30代、40代、50代、60代に多い。逆に「どちらかと言えば女性が優遇」では男性が多く、特に若い世代に多い。

質問11 問10で、2~5と答えた方にお聞きします。  
 平等でないと思う分野は次のどれですか(3つ以内で)

(回答者数 540人、回答数 1,336件)



全体、男性、女性ともに「社会通念・慣習等」で不平等感を感じている人が最も多く、次いで「職場」「家庭生活」が多い。  
 年代別では60代が分野全体で多い。特に「家庭生活」「地域」の分野で、他の年代より不平等感を多く感じている人が多い。

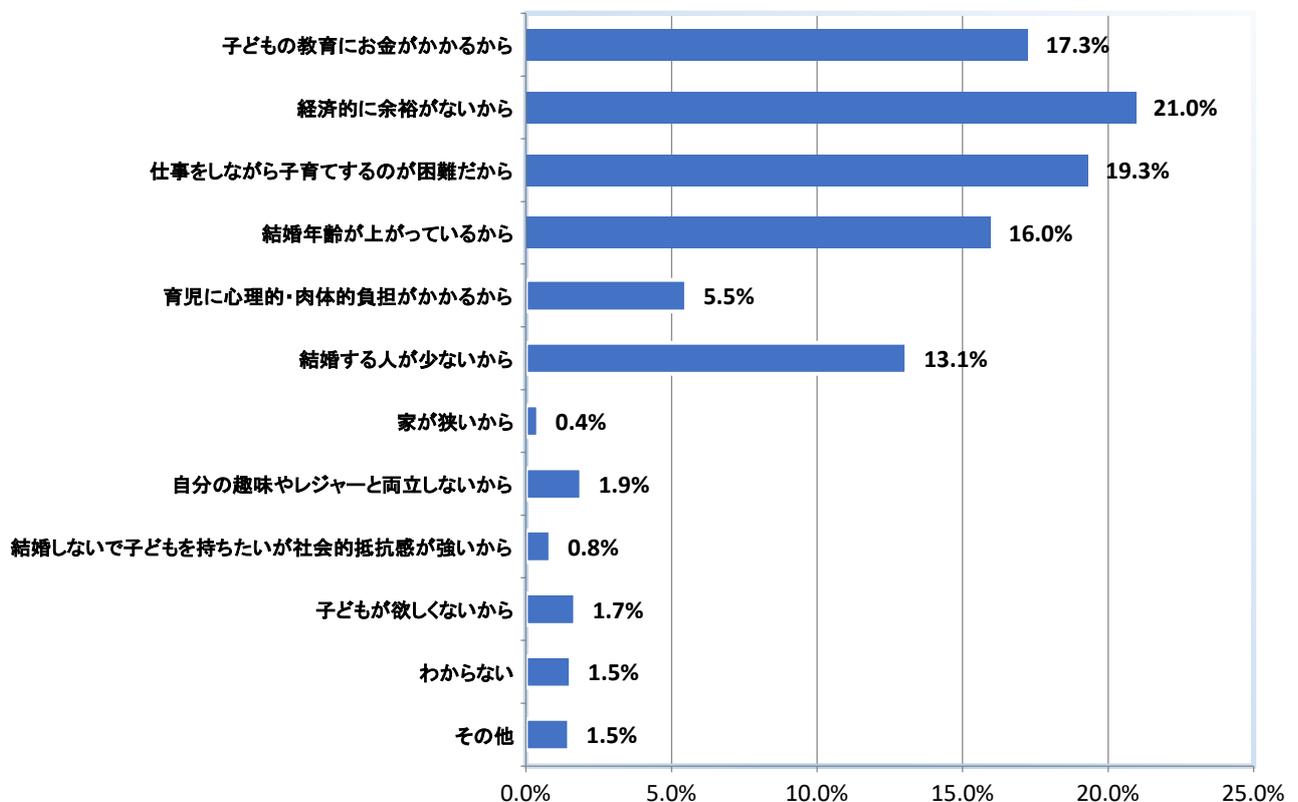
## 子育てについて

質問12 子どもの出生率が減少傾向にあります。その理由は何であると思われますか。次の中からあなたのお考えに近いものを選んでください。(3つ以内で)

(回答者数 710人、回答数 1,889件)

子どもの教育にお金がかかるから	経済的に余裕がないから	仕事をしながら子育てするのが困難だから	結婚年齢が上がっているから	育児に心理的・肉体的負担がかかるから	結婚する人が少ないから	家が狭いから	自分の趣味やレジャーと両立しないから	結婚しないで子どもを持ちたいが社会的抵抗感が強いから	子どもが欲しくないから	わからない	その他
326	396	365	302	104	247	8	36	16	32	29	28

(人)



### 【その他】

- ・ 職場(会社等)に理解が無いから
- ・ 子どもに希望のない社会だから。
- ・ 欲しくても授からない(不妊) 2人
- ・ 国や地方で、子育てや出産に対する支援が少ないため。

「経済的に余裕がないから」が21.0%で最も多い。次いで「仕事をしながら子育てするのが困難だから」と「子どもの教育にお金がかかるから」となる。平成21年度調査でも同じ傾向であった。

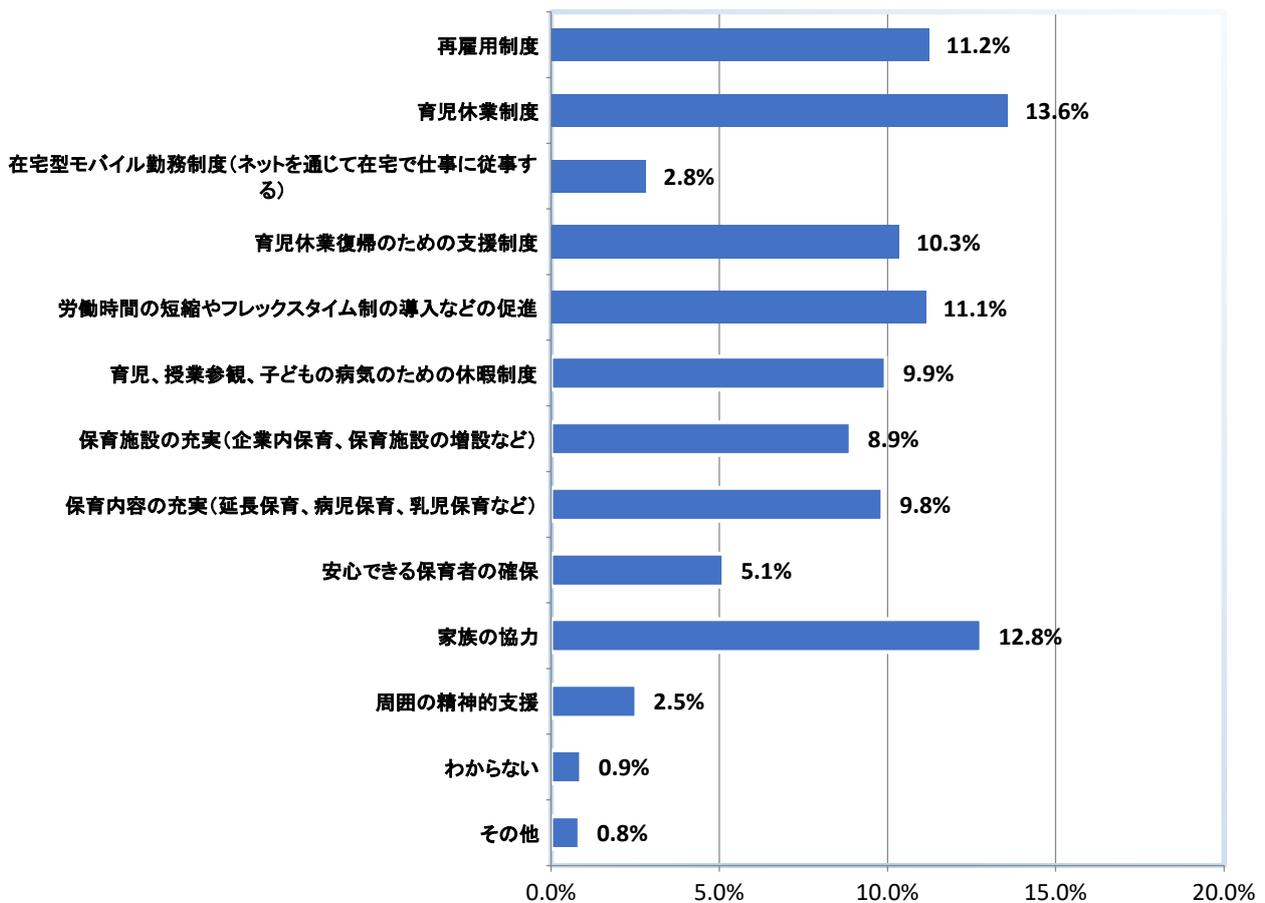
また、「結婚年齢が上がっているから」と「結婚する人が少ないから」は、前回調査では11.6%と10.8%であり、今回調査の方がそれぞれ4.4%、2.3%増えている。

質問13 男女共に働きながら子育てするには、何が必要だと思いますか。(3つ以内で)

(回答者数 712人、回答数 2,011件)

再雇用制度	育児休業制度	在宅型モバイル勤務制度(ネットを通じて在宅で仕事に従事する)	育児休業復帰のための支援制度	労働時間の短縮やフレックスタイム制の導入などの促進	育児、授業参観、子どもの病気のための休暇制度	保育施設の充実(企業内保育、保育施設の増設など)	保育内容の充実(延長保育、病児保育、乳児保育など)	安心できる保育者の確保	家族の協力	周囲の精神的支援	わからない	その他
226	273	57	208	224	200	179	198	103	257	51	18	17

(人)



#### 【その他】

- ・職場の理解 2人
- ・育児協力者
- ・地域活動、学校PTA活動の負担を減らす。 2人

「育児休業制度」が13.6%と多く、次いで「家族の協力」12.8%、「再雇用制度」11.2%の順に多かった。これは平成21年度調査でも同じ傾向だった。

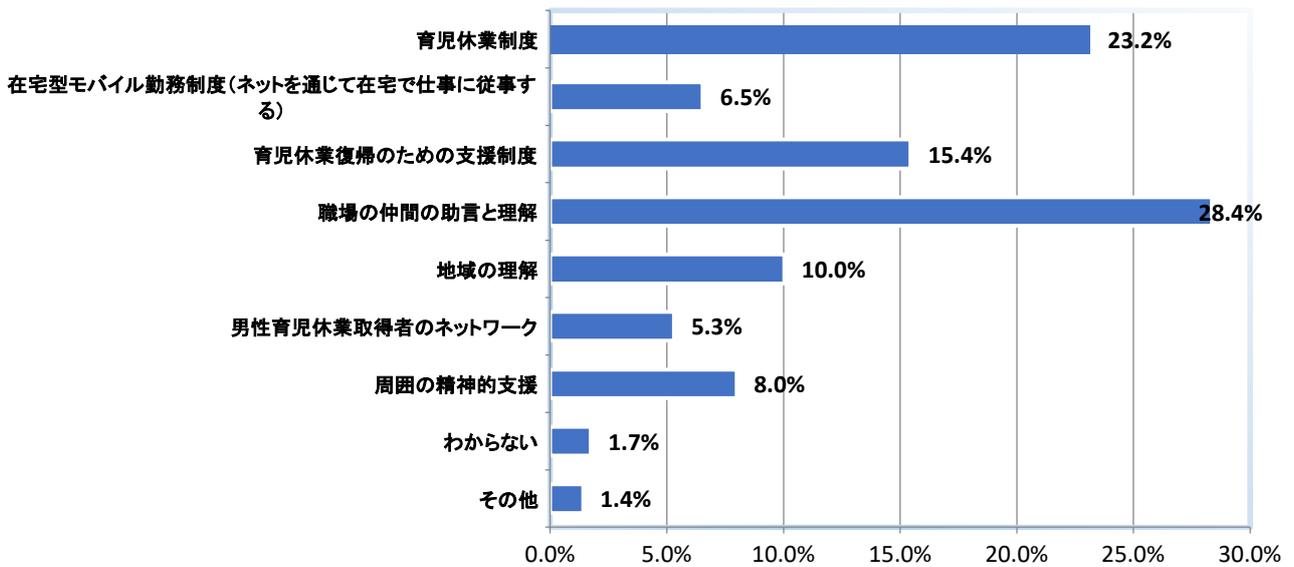
「労働時間の短縮やフレックスタイム制の導入などの促進」は前回の8.2%から今回11.1%と増えている。多様な働き方を求める人が増えていると考える。

質問14 男性が育児休業をとるには、何が必要だと思いますか。(3つ以内で)

(回答者数 712人、回答数 1,774件)

育児休業制度	在宅型モバイル勤務制度(ネットを通じて在宅で仕事に従事する)	育児休業復帰のための支援制度	職場の仲間の助言と理解	地域の理解	男性育児休業取得者のネットワーク	周囲の精神的支援	わからない	その他
411	116	274	503	178	94	142	31	25

(人)



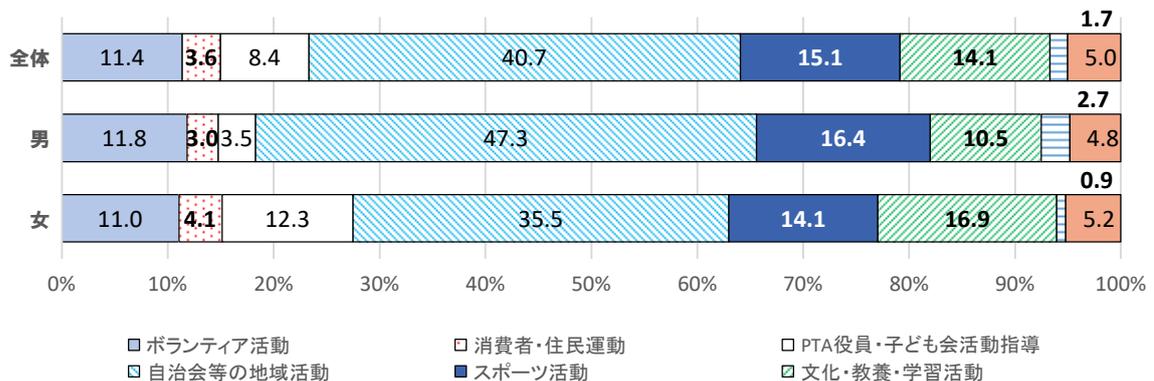
### 【その他】

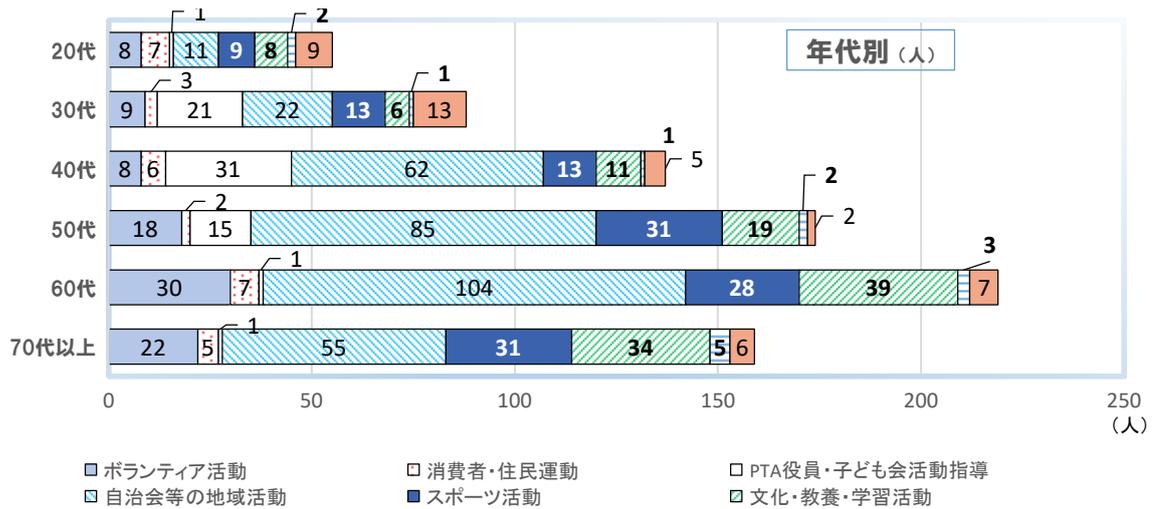
- ・それができる環境と収入
- ・職場環境、夫婦の話し合い

「職場の仲間の助言と理解」が28.4%と最も多い。次いで「育児休業制度」23.2%と考える人が多い。前回調査でもそれぞれ、24.0%、25.8%と多く、順位の逆転はあるが職場の環境および制度の必要性を望む人が多いと感じる。

## 社会参加について

質問15 (1)現在、どのような地域活動をしていますか。(3つ以内で) (回答者数 547人、回答数 835件)



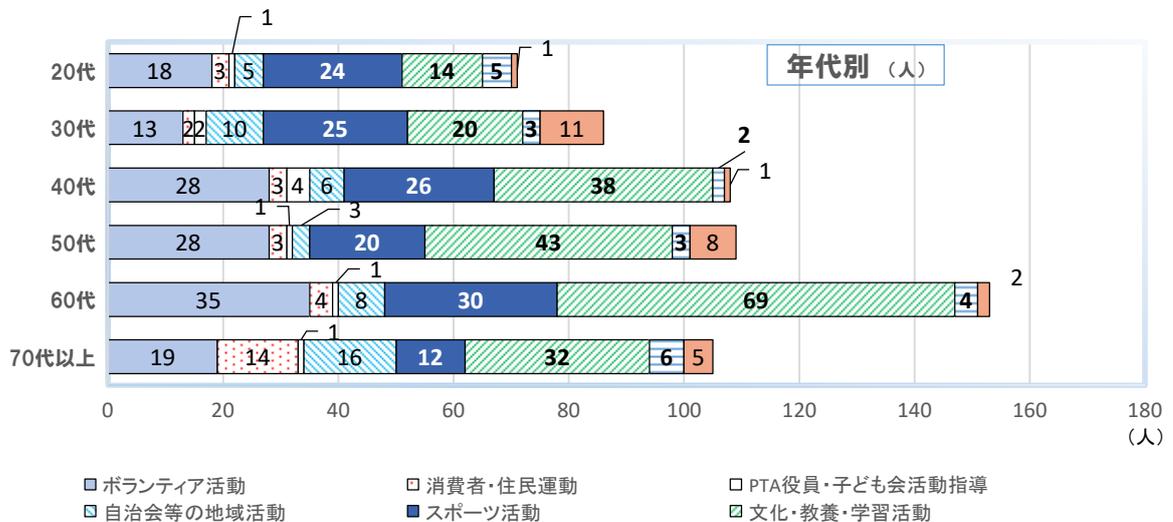
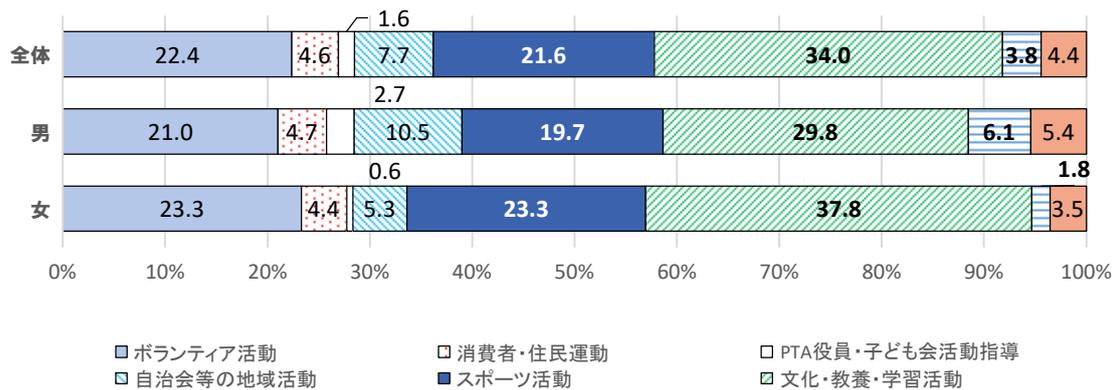


**【その他】**

- ・消防団
- ・地域活動支援センター

**(2) 新たに参加してみたい活動は何ですか。(3つ以内で)**

(回答者数 449人、回答数 635件)



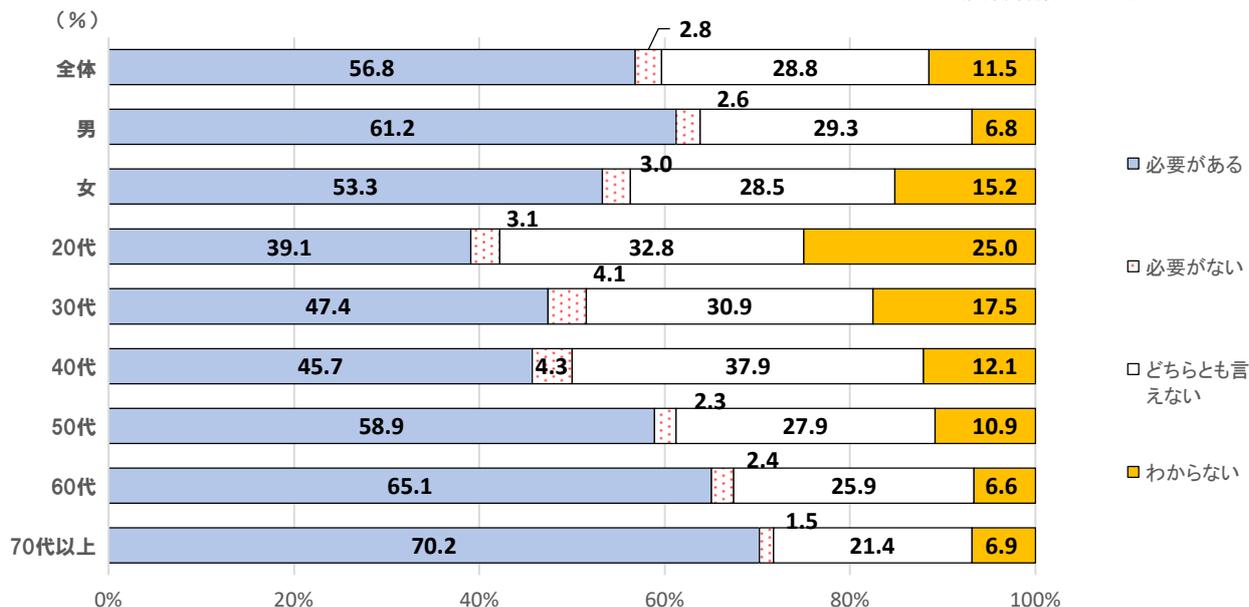
**【その他】**

- ・街造り推進活動
- ・困っている子どもや人の支援
- ・地域活動支援センター

**質問16 女性をもっと審議会や委員会などの政策方針決定の場に参画する必要があると思いますか。**

性別・年代別

(回答者数 704人)

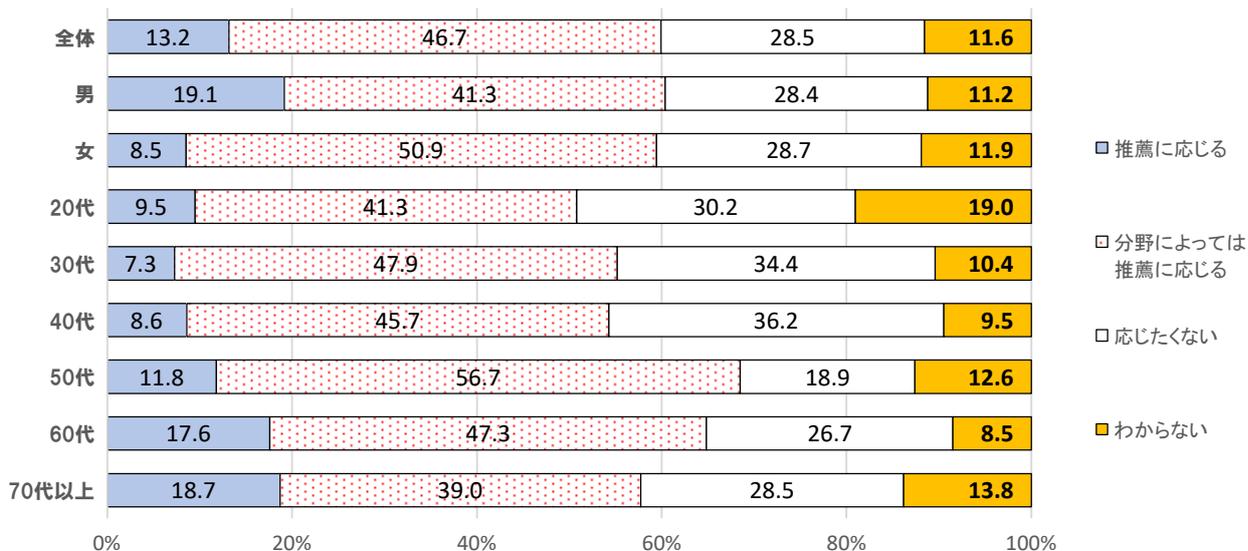


「必要がある」と感じている人は、全体で56.8%。性別では男性61.2%、女性53.3%で男性の方が多。また、前回調査では全体52.9% (3.9%増)、男性55.5% (5.7%増)、女性51.0% (2.3%増)であり、必要と感じている人が増えている。

**質問17 区の役員やPTAの役員に推薦されたらどうしますか。**

(回答者数 691人)

性別・年代別 (%)



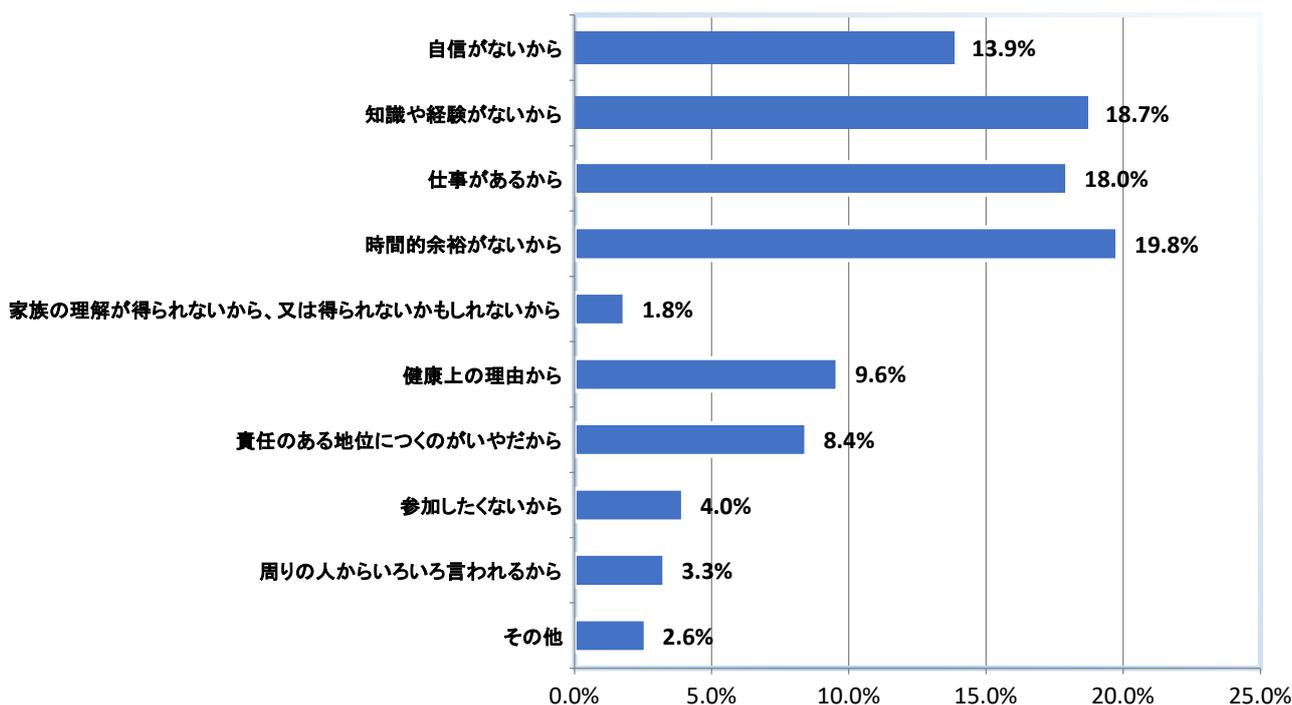
「推薦に応じる」に「分野によっては推薦に応じる」を含めると全体で59.9%。性別では男性60.4%、女性59.4%と男女差は1.0%。前回調査では男性63.2%、女性55.4%でその差は7.8%だったので、男女で考え方の差も少なくなっている。若い世代の「応じたくない」の比率が大きいのが気になる。

質問18 問17で「2~4」と答えた方はどんな理由からですか。(3つ以内で)

(回答者数 594人、回答数 1,314件)

自信がないから	知識や経験がないから	仕事があるから	時間的余裕がないから	家族の理解が得られないから、又は得られないかもしれないから	健康上の理由から	責任のある地位につくのがいやだから	参加したくないから	周りの人からいろいろ言われるから	その他
182	246	236	260	24	126	111	52	43	34

(人)



【その他】

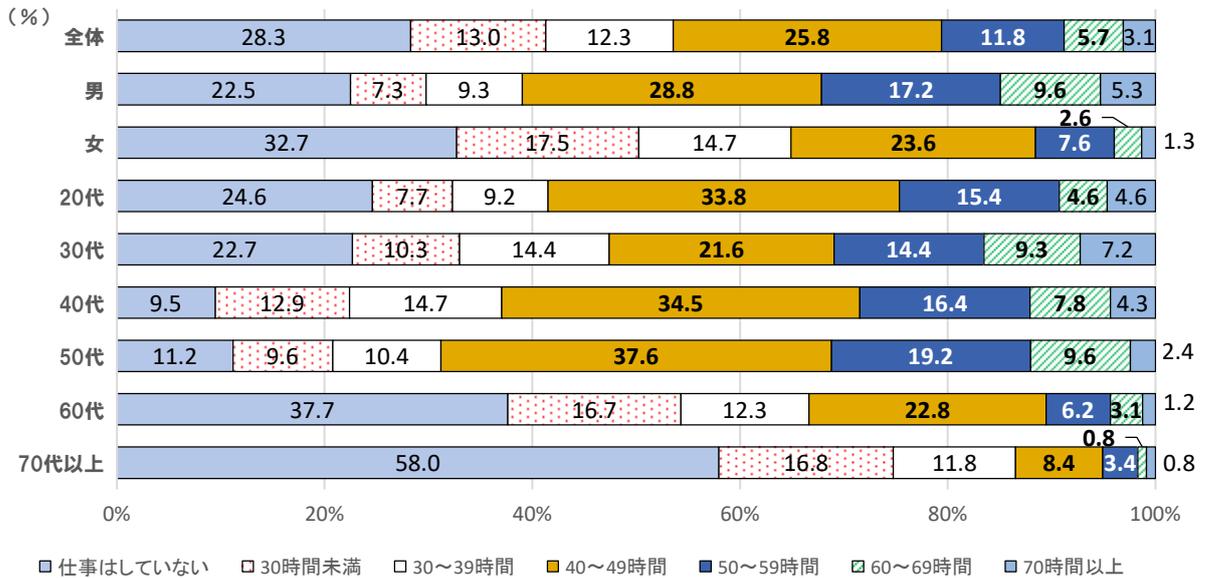
- ・ 役員の関わりが気が重いから。
- ・ 役員会など夜にあるため、子供の面倒を見る人をお願いするのが大変。
- ・ 役員がどんな事をしているのか、全くわからず不安。

「時間的余裕がないから」が19.8%が最も多く、次いで「知識や経験がないから」18.7%になっている。前回調査でもそれぞれ19.9%に続き、18.3%と同じ傾向にあった。  
 「自信がないから」は今回13.9%で、前回の15.7%から1.8%低下したが、「仕事があるから」は今回18.0%に対し、前回15.5%で2.5%増加した。  
 仕事をしながら役員を受けるとするのは、負担が大きいと感じる人が増えている。

質問19 一週間の労働時間は、合計何時間くらいですか。(家事労働を抜いた時間)

性別・年代別

(回答者数 685人)

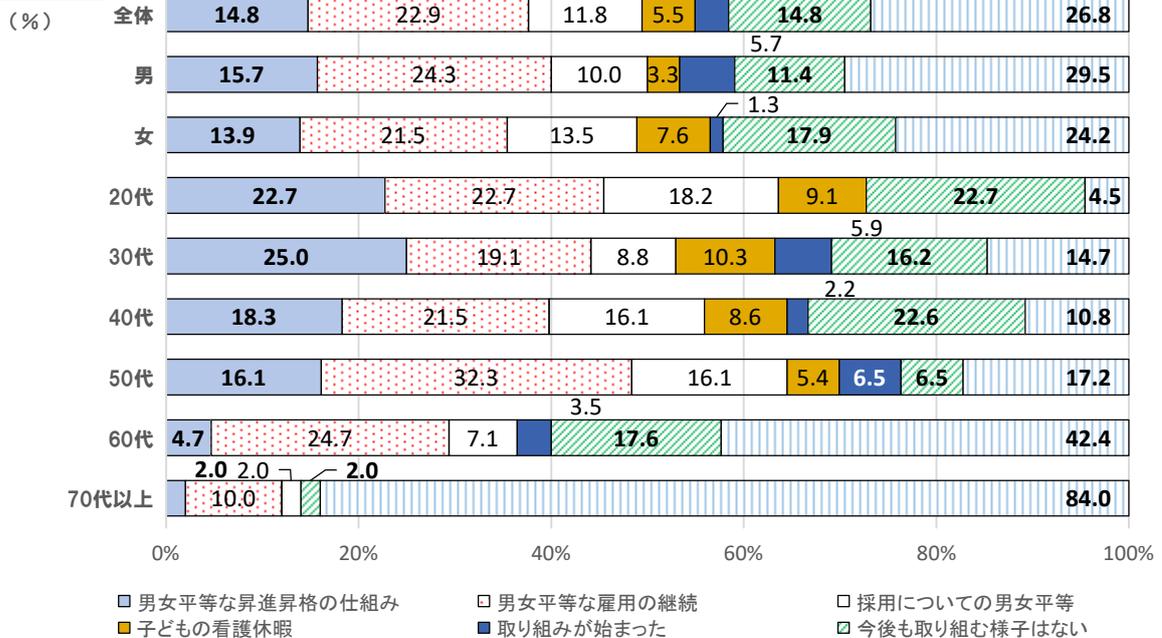


「仕事はしていない」を除くと、「40～49時間」が一番多く、概ね週休2日の8時間労働という人が多いと感じる。そんな中、男性または若い世代の「70時間以上」の数字も気になる。

質問20 問19で「2～7」と答えた方にお聞きします。あなたの職場は、次のうちどんな仕組みが整っていますか。

(回答者数 433人)

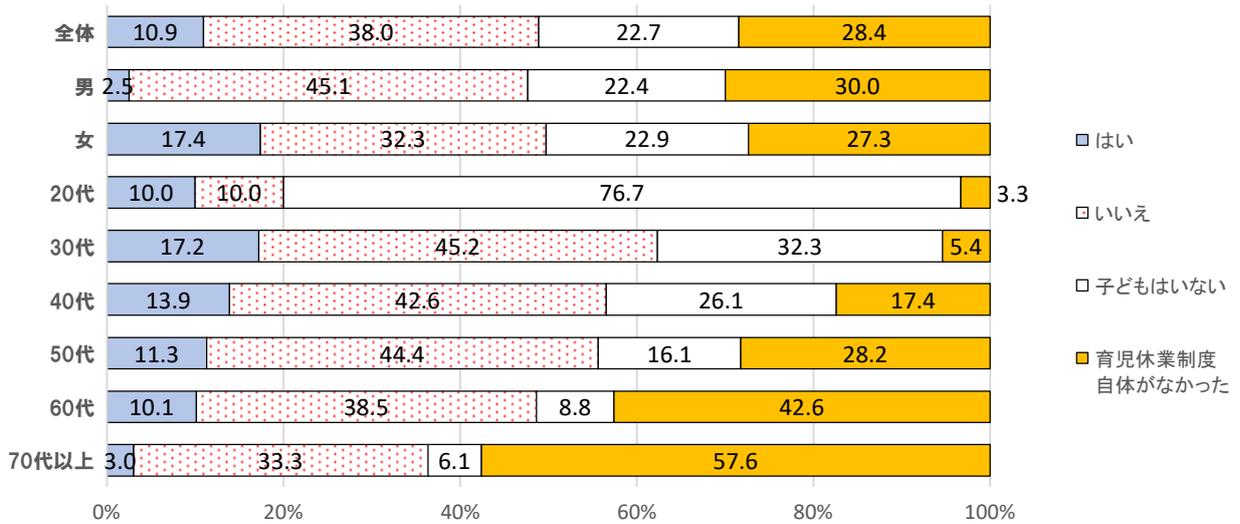
性別・年代別



質問21 今は男女ともに育児休暇を取ることができます。あなたは子どもの出生後に「育児休業」を取りましたか。

(回答者数 640人)

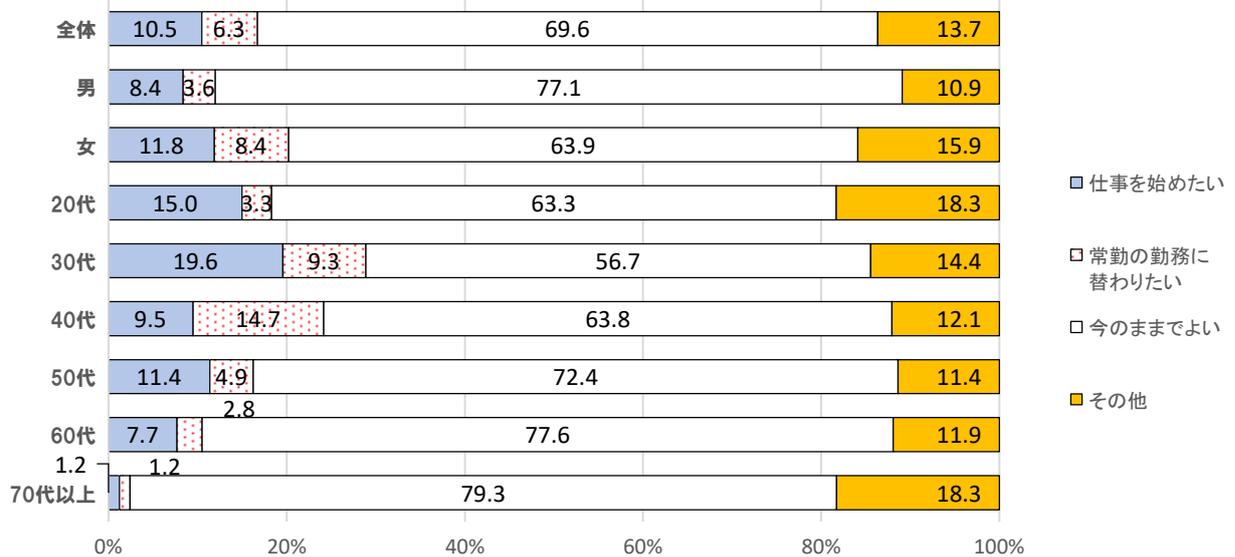
## 性別・年代別 (%)



男女ともに「いいえ」が最も多い。「はい」に関しては、男性2.5%、女性17.4%とまだまだ低く、さらなる啓発が必要と考える。

## 質問22 仕事に関するご自分の希望をお尋ねします。(回答者数 622人)

## 性別・年代別 (%)



## 【その他】

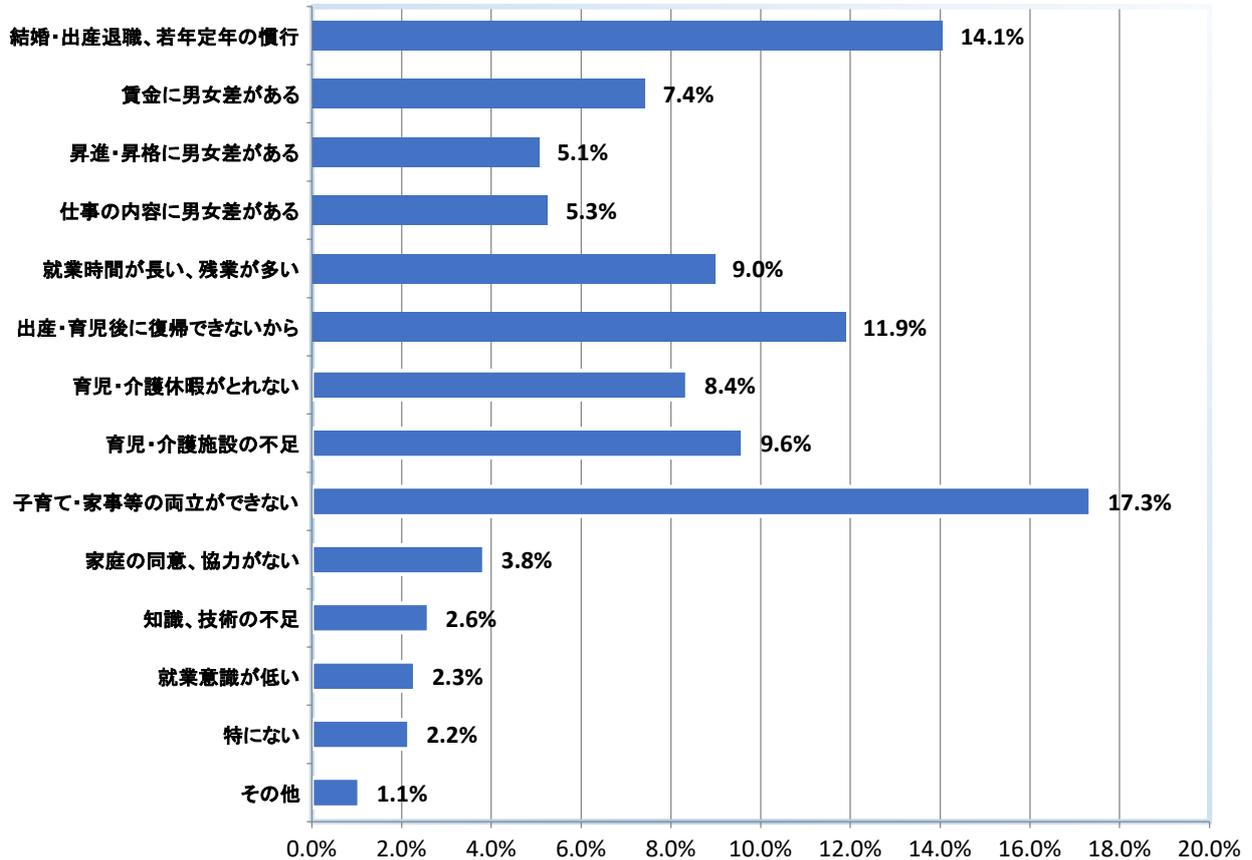
- ・定年退職後も勤めたい。
- ・休みがほしい
- ・転職したい 5人
- ・家から近く、休日、勤務時間が規則的な仕事に転職したい。
- ・ネット環境があればできる仕事は家で行いたい。

「仕事を始めたい」は20代、30代が多く、「常勤の勤務に替わりたい」は30代、40代が多い。質問24での答で「子育てで仕事を中断する人が多い」と考える人が多いことから、再就職の難しさを感じ

## 質問23 女性が働く上での障害は何だと思いますか。(3つ以内で) (回答者数 670人、回答数 1,614件)

結婚・出産退職、若年定年の慣行	賞金に男女差がある	昇進・昇格に男女差がある	仕事の内容に男女差がある	就業時間が長い、残業が多い	出産・育児後に復帰できないから	育児・介護休暇がとれない	育児・介護施設の不足	子育て・家事等の両立ができない	家庭の同意、協力が無い	知識、技術の不足	就業意識が低い	特になし	その他
227	120	82	85	145	192	135	155	280	62	42	37	35	17

(人)



### 【その他】

- ・ 夫は仕事が忙しく、育児参加は難しい。休日は日曜のみです。子どもと関わるのが困難な状況で、子どもの病気の対応は母親がしなければならないが、仕事があると大変。祖父母も仕事をしていたり、協力できないこともしばしばです。
- ・ 仕事時間の融通の利かなさ。

「子育て・家事等の両立ができない」が17.3%で最も多い。次いで「結婚・出産退職、若年定年の慣行」が14.1%となっている。前回調査ではそれぞれ14.7%、17.2%であり、順位が逆転。

核家族化により家族の協力がなかなか得られず、両立は難しいと感じる人も多いのではないかと。それをフォローする制度や周りの支援がまだまだ不十分であるといえる。

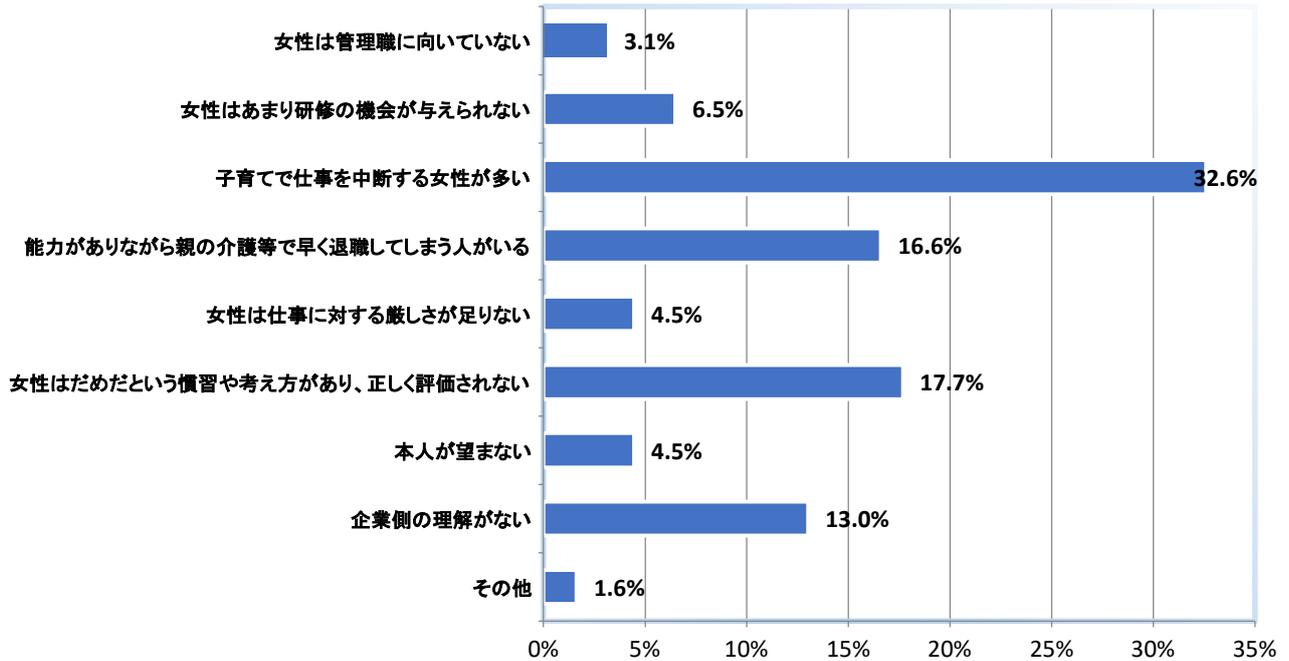
### 質問24 女性の管理職が少ないのは何故だと思いますか。(3つ以内で)

(回答者数 672人、回答数 1,482件)

(回答者数 672人、回答数 1,482件)

女性は管理職に向いていない	女性はあまり研修の機会が与えられない	子育てで仕事を中断する女性が多い	能力がありながら親の介護等で早く退職してしまう人がある	女性は仕事に対する厳しさが足りない	女性はだめだという慣習や考え方があり、正しく評価されない	本人が望まない	企業側の理解がない	その他
46	96	483	246	66	262	66	193	24

(人)



#### 【本人が望まない】理由

- ・ 家庭内の男女平等が確立されていないから。
- ・ 家庭があるから
- ・ 責任ある立場を負担と感じている傾向がある。
- ・ 自分で子育てをする人、優先する人が多い。

#### 【その他】

- ・ 責任ある仕事につくと、労働時間も長くなり、家事が大変になる。男性の理解がない。
- ・ 男性の中で孤立する。同性の仲間がそもそも少ない。いない。
- ・ 結局、子どもをみるのが女性だからという環境や制度。

「子育てで仕事を中断する女性が多い」が32.6%で最も多い。次いで「女性はだめだという慣習や考え方があり、正しく評価されない」が17.7%、「能力がありながら親の介護等で早く退職してしまう人がある」が16.6%と続く。これは前回調査でもそれぞれ26.3%、17.1%、14.4%で同じ状況であった。

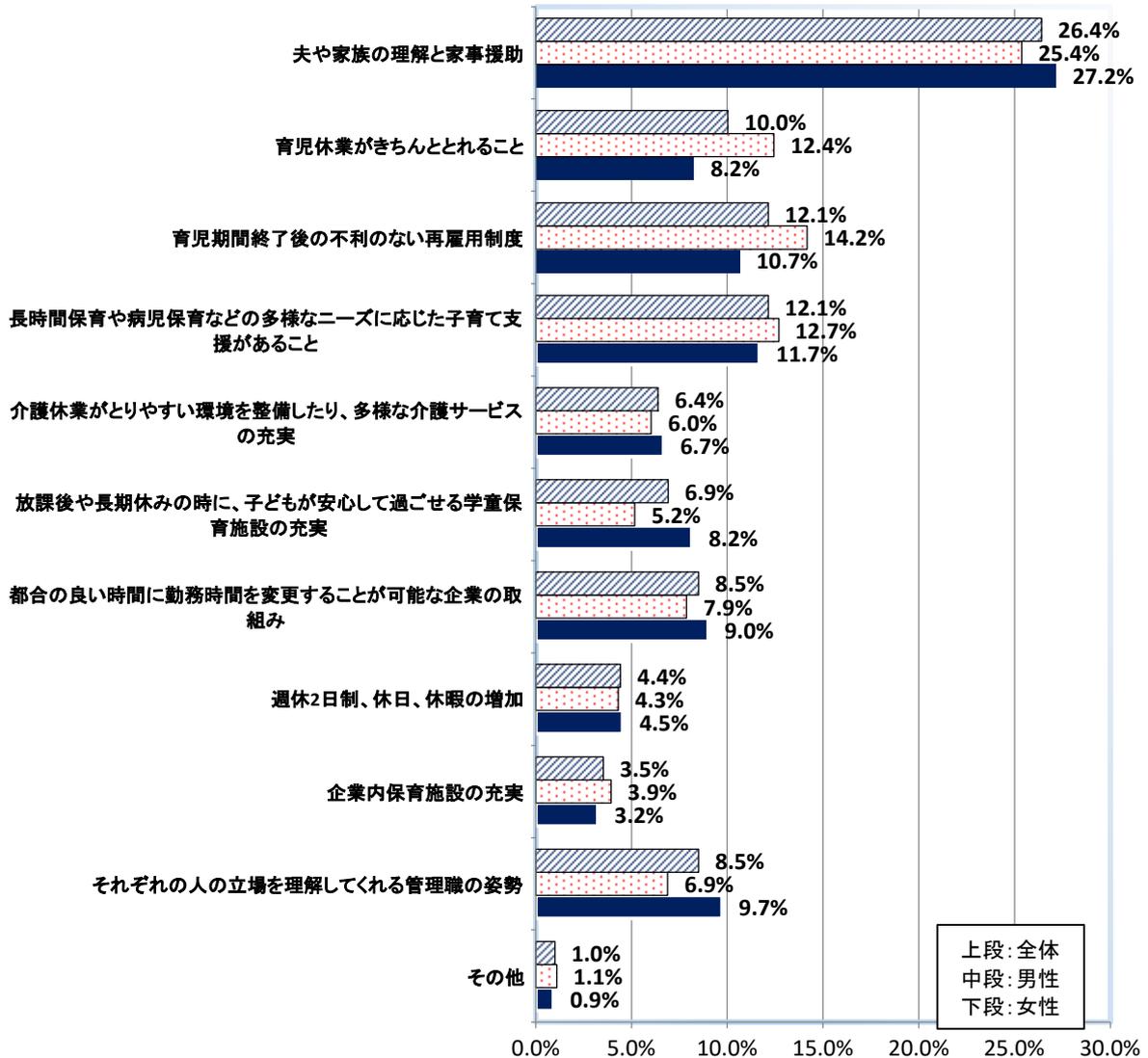
#### 質問25 女性が働き続けるために最も必要な事はどんな事だと思いますか。(3つ以内で)

(回答者数 692人、回答数 1,894件)

(回答者数 692人、回答数 1,894件)

	夫や家族の理解と家事援助	育児休業がきちんととれること	育児期間終了後の不利のない再雇用制度	長時間保育や病児保育などの多様なニーズに応じた子育て支援があること	介護休業がとりやすい環境を整備したり、多様な介護サービスの充実	放課後や長期休みの時に、子どもが安心して過ごせる学童保育施設の充実	都合の良い時間に勤務時間を変更することが可能な企業の取組み	週休2日制、休日、休暇の増加	企業内保育施設の充実	それぞれの人の立場を理解してくれる管理職の姿勢	その他
全体	500	190	230	230	121	131	161	84	67	161	19

(人)



【その他】

- ・ 女性が家を離れても、子供の面倒を見る家族がいること。
- ・ 企業が雇用を増やし、一人ひとりの仕事の負担を減らす。企業が「仕事主義」をやめて、「家庭」や「自己の時間」も重んじる。理念を会社内全体に広げる。
- ・ 世帯の時間的なゆとり

「夫や家族の理解と家事援助」と考える人が、全体26.4%、男性25.4%、女性27.2%で最も多い比率となっている。次いで「育児期間終了後の不利のない再雇用制度」「長時間保育や病児保育などの多様なニーズに応じた子育て支援があること」と続く。

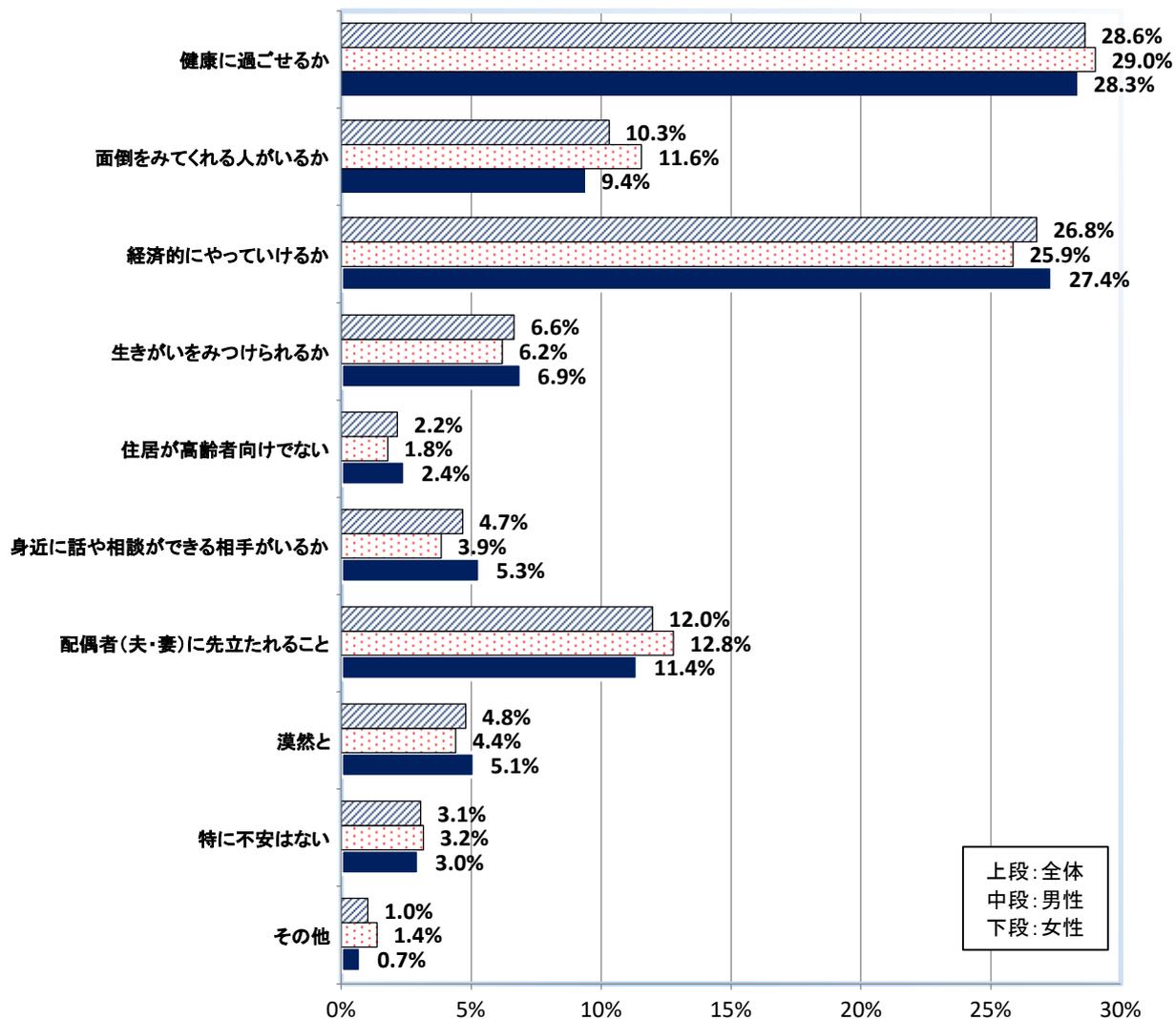
社会福祉について

(回答者数 706人、回答数 1,670件)

質問26 自分の老後に不安がありますか。(3つ以内で) (回答者数 706人、回答数 1,670件)

	健康に過ごせるか	面倒をみてくれる人がいるか	経済的にやっつけられるか	生きがいを見つけられるか	住居が高齢者向けでない	身近に話や相談ができる相手がいるか	配偶者(夫・妻)に先立たれること	漠然と	特に不安はない	その他
全体	478	172	447	111	36	78	200	80	51	17

(人)



【その他】

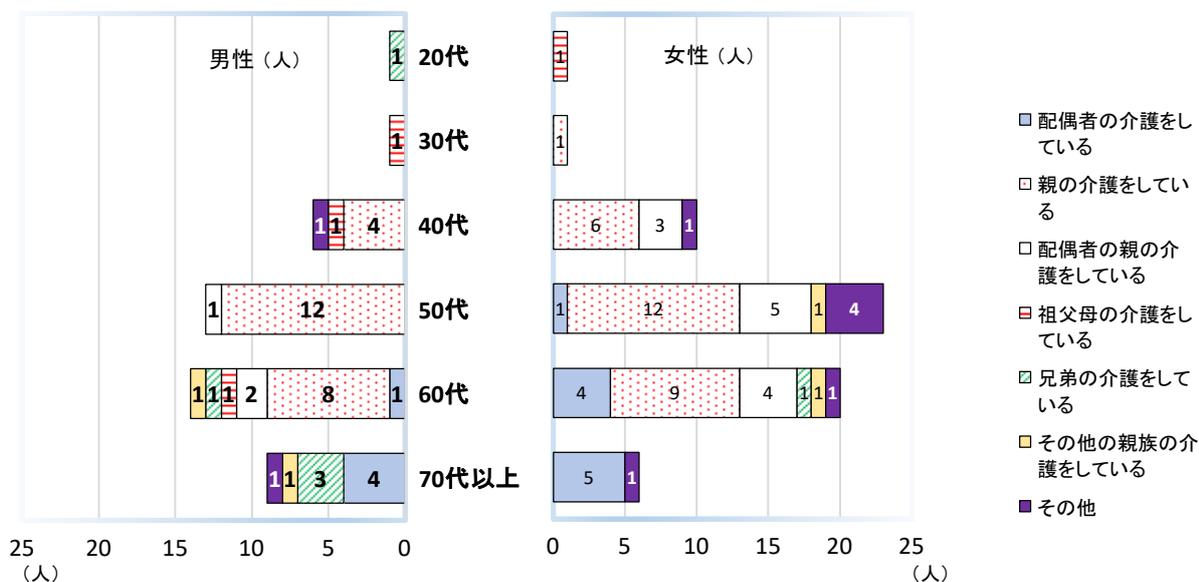
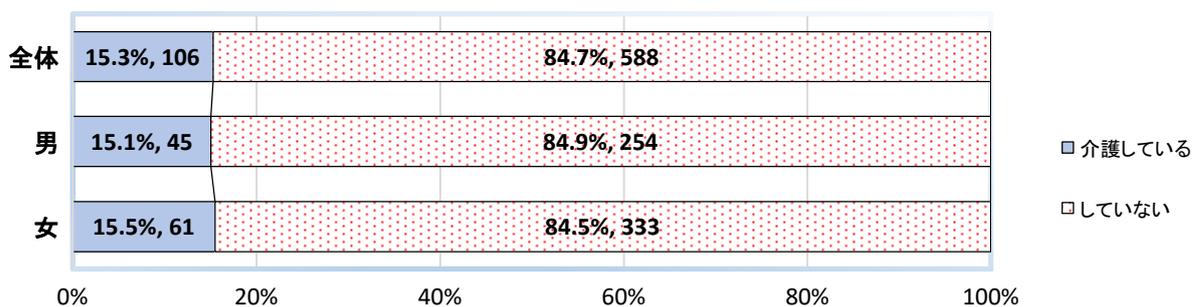
- ・年金がちゃんと出るか。2人
- ・必要なサービスが受けられるか。
- ・妻は外国人で子どもがいない。自分が先立った場合、妻の生活が不安。

「健康に過ごせるか」が28.6%、「経済的にやっつけられるか」が26.8%と上位となった。前回調査でもそれぞれ27.3%、24.8%と上位を占めており、同様の状況であった。

性別の割合でみると、「面倒をみてくれる人がいるか」「配偶者(夫・妻)に先立たれること」という事に不安を感じているのは男性が多いのに対し、「経済的にやっつけられるか」「身近に相談できる相手がいるか」という事について不安を感じるのは女性が多い。

質問27 あなたは現在誰かの介護をしていますか。

(回答者数 694人)



【その他】

- ・友人
- ・介護までとはいかないが、洗濯や食事の世話。

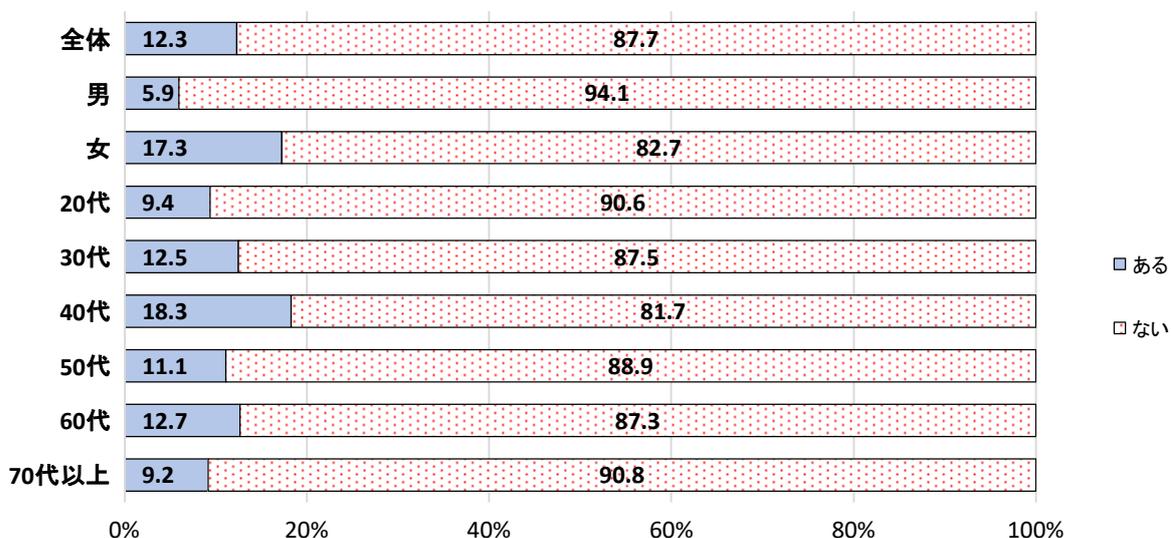
「介護をしている」と答えた人は、全体で106名(15.3%)である。うち男性が45人(42.5%)、女性が61人(57.5%)であった。前回調査でも全体で117人(14.7%)、うち男性が49人(41.9%)、女性が68人(58.1%)で、人数は若干少なくなっているが、ほぼ同じような状況であった。

他の年代と比較すると、70代以上では男性の方が介護者が多い。またその内訳としては、男女ともに配偶者の介護が多い。

質問28 男女間(夫婦・パートナー間)における下記のような暴力を受けた経験がありますか。

性別・年代別 (%)

(回答者数 699人)



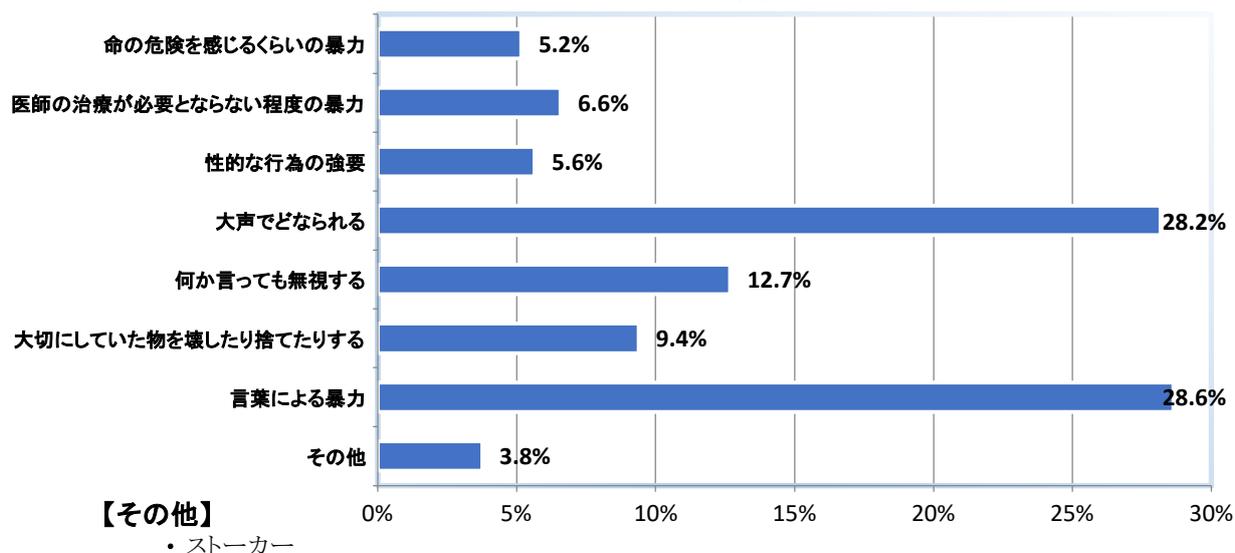
「暴力を受けた経験がある」と回答した人は、全体の12.3%だった。うち男性は18名、女性は68名で約8割を占めている。

ア「ある」と答えた方は下記の内どのような暴力ですか。

(回答者数 86人、回答数 213件)

命の危険を感じるくらいの暴力	医師の治療が必要とまらない程度の暴力	性的な行為の強要	大声でどなられる	何か言っても無視する	大切にしていた物を壊したり捨てたりする	言葉による暴力	その他
11	14	12	60	27	20	61	8

(人)



内容的には「言葉による暴力」が28.6%、「大声でどなられる」が28.2%と多く、DVの感じ方にもよるが、もしかしたら言葉を浴びせた方は、暴力だと思っていないのかもしれない。

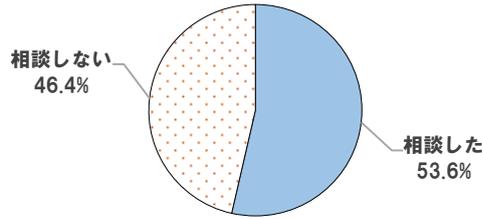
質問29 問28で「ある」と答えた方にお訪ねします。

だれかに相談しましたか。

(回答者数 84人)

相談した	相談しない
45	39

(人)

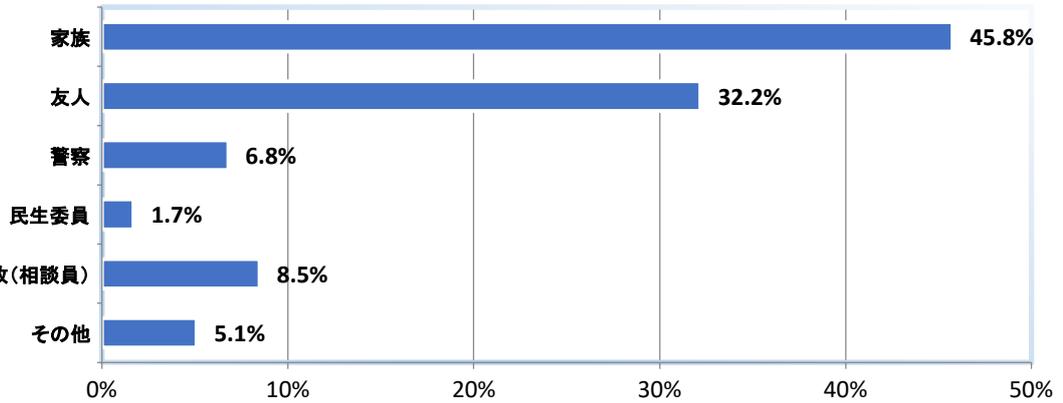


ア「相談した」と答えた方は、だれに相談しましたか。

(回答者数 45人、回答数 59件)

家族	友人	警察	民生委員	行政(相談員)	その他
27	19	4	1	5	3

(人)

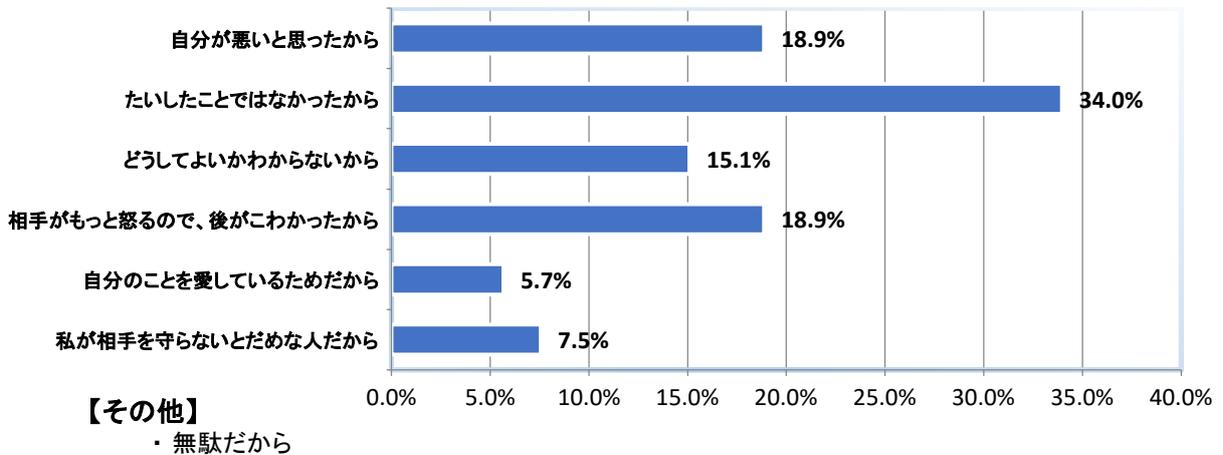


イ「相談しなかった」と答えた方は、なぜですか。

(回答者数 38人、回答数 53件)

自分が悪いと思ったから	たいしたことではなかったから	どうしてよいかわからないから	相手をもっと怒るので、後がこわかったから	自分のことを愛しているためだから	私が相手を守らないとだめな人だから
10	18	8	10	3	4

(人)



「たいしたことではなかったから」が34.0%で最も多い。次いで「相手をもっと怒るので、後がこわかったから」が多いが、深刻なケースになりやすく気になる。

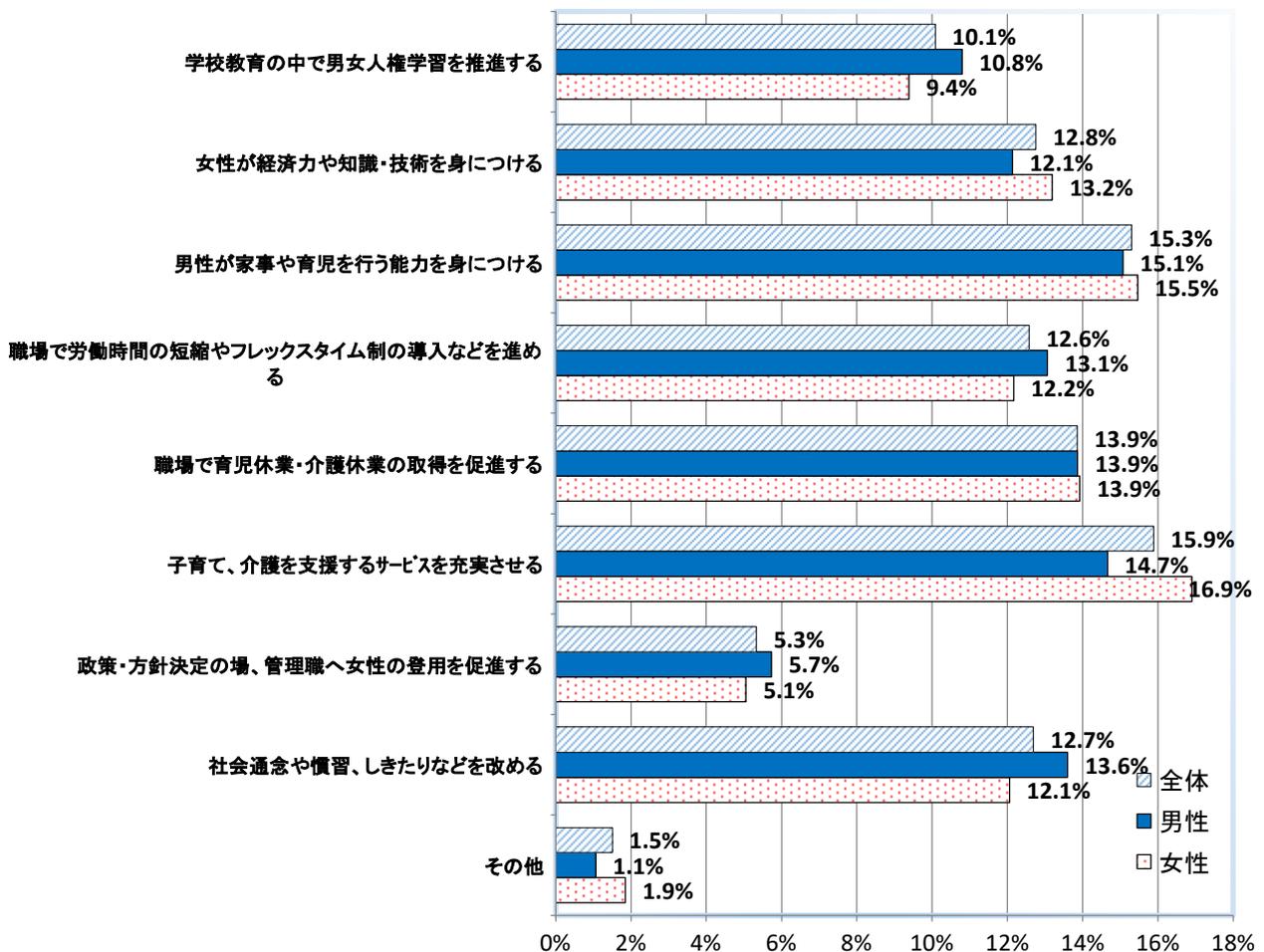
## その他

### 質問30 今後、男女共同参画の推進のために必要なことは何だと思えますか。(3つ以内で)

(回答者数 679人、回答数 1,725件)

	学校教育の中で男女人権学習を推進する	女性が経済力や知識・技術を身につける	男性が家事や育児を行う能力を身につける	職場で労働時間の短縮やフレックスタイム制の導入などを進める	職場で育児休業・介護休業の取得を促進する	子育て、介護を支援するサービスを充実させる	政策・方針決定の場、管理職へ女性の登用を促進する	社会通念や慣習、しきたりなどを改める	その他
(全体)	174	220	264	217	239	274	92	219	26

(人)



#### 【その他】

- ・女性も大変だけど、男性への取り組みも必要。
- ・女性も女であることを立ち回りの武器にしない。
- ・夫婦による相談が重要。

全体では「子育て、介護を支援するサービスを充実させる」が15.9%と最も多く、次いで「男性が家事や育児を行う能力を身につける」が15.3%と続く。

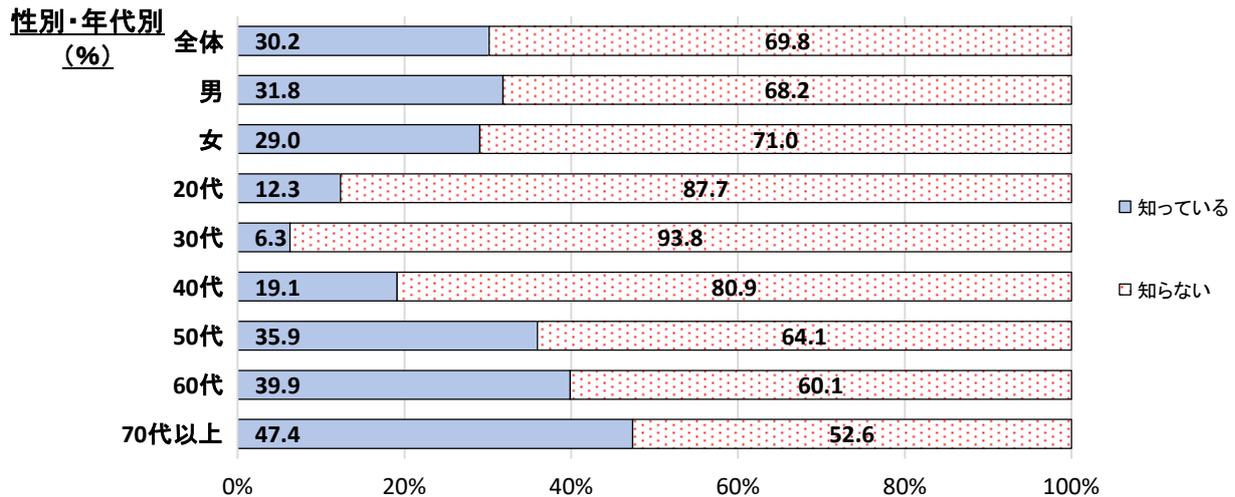
特に、「子育て、介護を支援するサービスを充実させる」に関しては、男性と女性の比率の違いが

### 質問31 次の条令や計画があることを知っていますか。

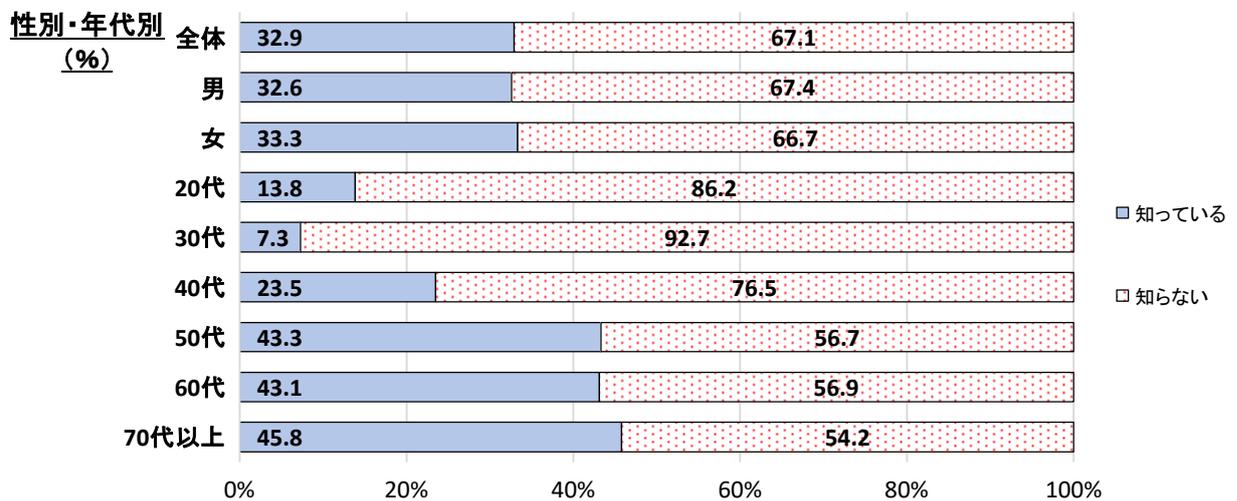
(回答者数 706人)

#### ア 東御市男女共同参画推進条例

性別・年代別

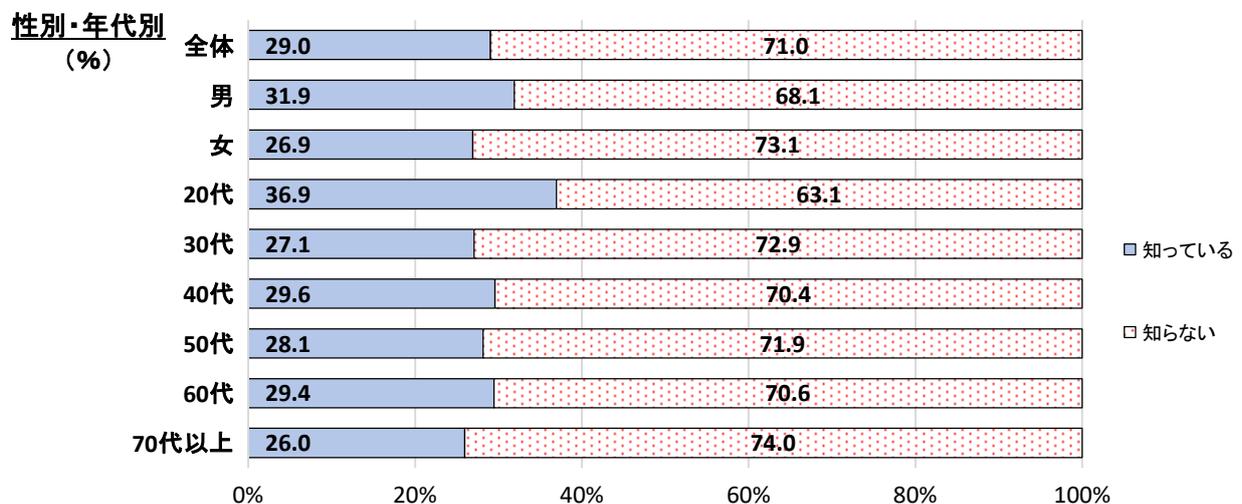


**イ 東御市男女共同参画推進計画 (回答者数 702人)**



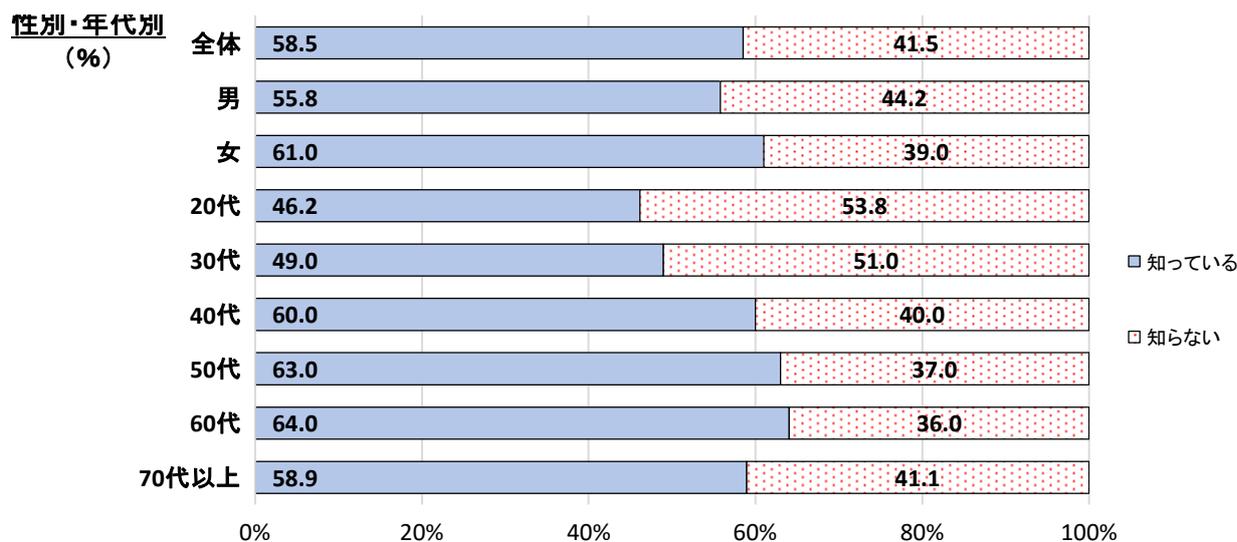
**質問32 次の内容を知っていますか。**

**ア ワーク・ライフ・バランス (回答者数 699人)**

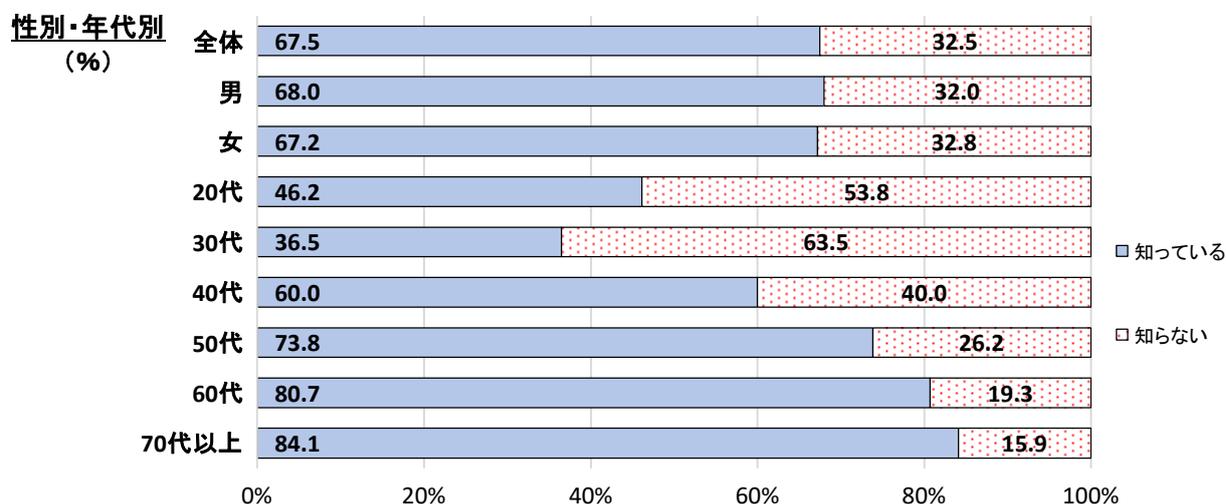


**イ 子育て支援事業 (回答者数 697人)**

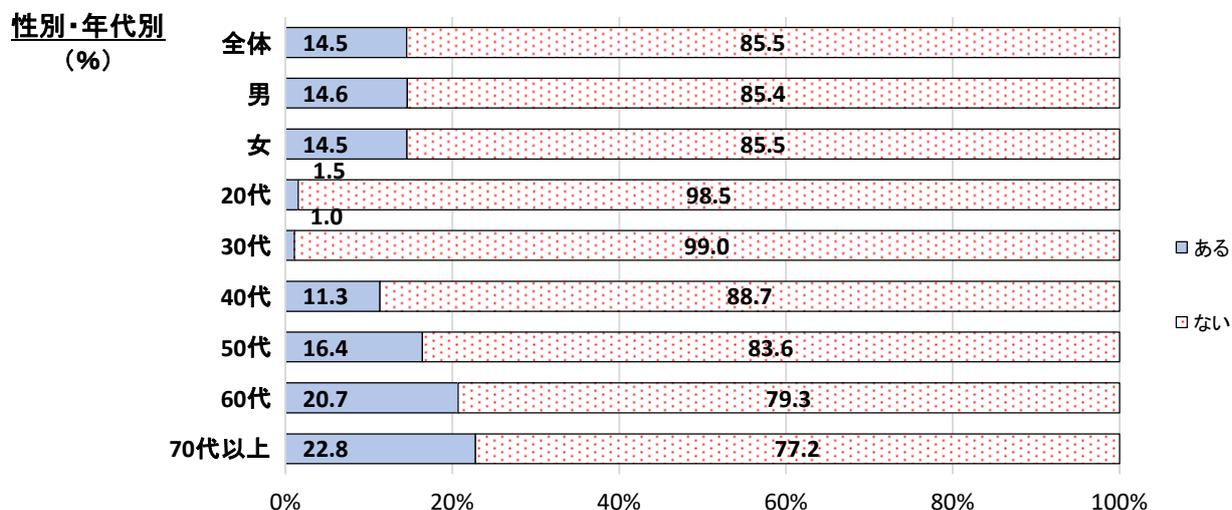




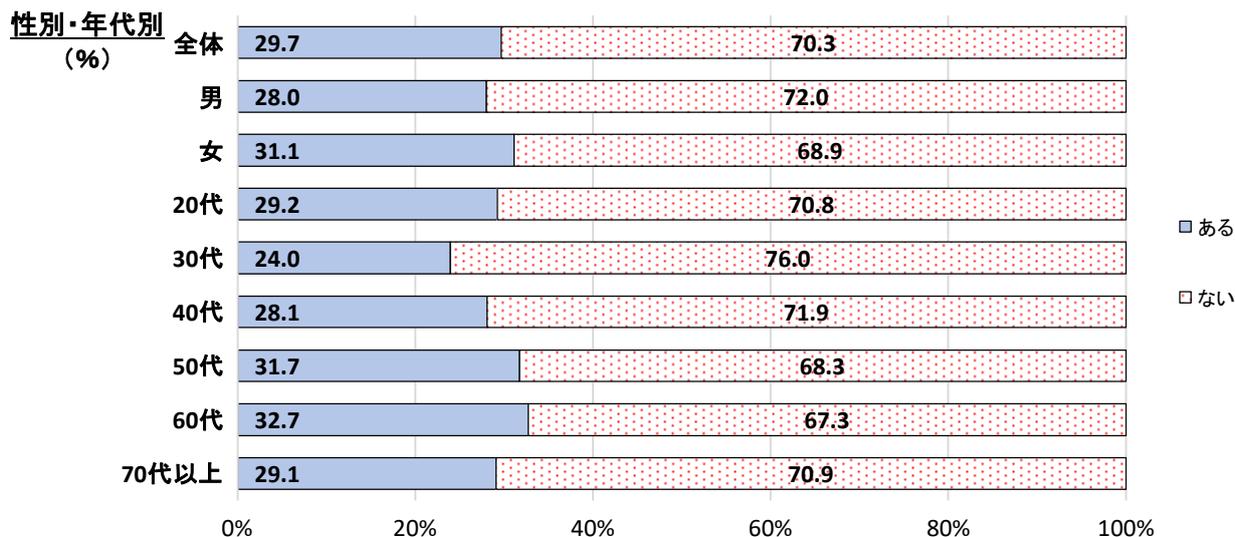
**ウ 介護保険サービスや高齢者福祉サービス** (回答者数 701人)



**質問33 男女共同参画推進関連学習会・講演会に参加したことがありますか。** (回答者数 710人)



**質問34 男女共同参画に関する諸外国の動向や国際比較に関心がありますか。** (回答者数 704人)



◎ 男女共同参画・女性の職業生活における活躍・仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)等について、ご意見がありましたら、ご記入をお願いします。

○ 男女共同参画社会について

- ・ 社会全体の理解が重要であると捉え、根気強く市民が一体となって取り組むべき課題だと思います。男女の差がない東御市のために、市民全員で頑張れることを頑張りたいです。(男性、20代)
- ・ このアンケートをもらうまで東御市が男女共同参画の事業を進めていることを全く知りませんでしたし、男女共同参画が何なのかもわかりませんでした。東御で事業をしていても「知らない」では意味がないと思います。もっと情報を拡散していただきたいと思います。(女性、20代)
- ・ 男女共同参画が良い事のような風潮ですが、そもそも社会進出したくない女性も多くいます。まずは女性も社会進出しないと成り立たない家計状況を改める必要があると思いますが、現状では女性が働いても家計の助けは非常に小さいです。(労働時間が短い。保険料が高い)(男性、30代)
- ・ 行政と企業が一体となって物事に取り組まなければ、いつまで経ってもよくなる。(特に子育て、介護)地域社会と企業が共に取り組めるような政策を期待したい。(男性、30代)
- ・ すでに若い世代は男女共同、女性について平等で柔軟な考えを持っている人が多いのに対し、中・高年の方々の理解が少ないのが問題。男女というより、若い世代がのびのびと働き、収入を得て子育てできるようにならないといけません。(男性、30代)
- ・ 職業柄、中国へ渡航する事があるが、中国にも学ぶべき点がある。中国では男女差別や性的犯罪も日本に比べ少ない。それは何故か？今の日本は体裁を重んじ過ぎ、自由な就業、雇用が少ない。金＝幸せなの？もっと時間を有効にし、仕事と生活をバランスよくすべき。  
ワークライフバランスについて、私は現在輸入品をインターネットや直販などで販売する事業を商っております。所得は同年代では低い方で、年中無休です。しかしながら、比較的時間を友好的に使えますので、安い時期での旅行に行くこともできます。つまり私のような職業が増えてもよいのではとも考えております。仮に、主婦であり、引きこもりの成人であり、心に病をもち対人活動ができない人であれ、私のような職業は可能です。体裁に捉われずもっと自由な職業選択が可能で、さらに東御市として私のような営業性個人を支えて頂ける環境があれば、新業態として増えていくことでしょう。(男性、30代)
- ・ 「男女共同参画」という名目で、女性が今以上に何かを押し付けられる、やらされるという感じがしてしまいます。男性・女性ならではの得意分野もあるでしょうし、事情は人それぞれ、家庭それぞれです。そんなこと言っていたら、何も始まらないかもしれませんが…(女性、40代)
- ・ すべて本人の意識次第だと思います。(女性、40代)
- ・ 行政、企業、家庭、地域すべての面からの意識改革が必要であると思います。(女性、50代)
- ・ 社会全体が成人男性の視点でなく弱者(女性、お年寄り、子ども、障がい者等)の視点で考えられるようになれば、解決すると思う。いつになるやら。(女性、50代)
- ・ 今までの社会通念にしばられず変化対応を目指してほしいと思います。(女性、50代)
- ・ 経済的自立があれば、たとえ仕事をするにせよ、自由に生きていけるが、不幸なことに能力がなければ、自立そのものになりたない。また家族の協力はとても必要だが、理解がなければよい結婚生活そのものも難しくなると思う。(女性、60代)
- ・ 男性の協力が必要だと思います。(男性、60代)

- ・最近まで勤めておりまして、勉強不足ですみません。ワーク・ライフ・バランス等、女性の進出はなかなか難しいのが現実です。(女性、60代)
- ・タイムマシンに乗り、何年昔に戻ったら、今の男性優遇社会がなくなるのか、教えてほしいです。(女性、60代)
- ・男女共同参画から男女という言葉がなくなります様に。(女性、60代)
- ・女性がもっと地域や国の未来像に興味、関心をもっていろんな考え、方法があることをもっと知る機会を与えられた方がいいと思います。(女性、60代)
- ・「みんなが自分の持てる力を存分に発揮して様々な活動に参画し」とありますが、様々な活動に参画とはどのような活動なのか目線が定かではない。(男性、60代)
- ・女性、男性共に思いやり、お互いに尊重し合える社会にしたい。(男性、70代以上)

## ○ 男女平等と男女の役割分担について

- ・企業の考え方が大きな問題かと思う。男女平等は重要だが、本当に能力のある人が活躍できることが必要であって、数字のバランスなどにとらわれていると、真の意味を見失うと思います。(男性、30代)
- ・男女間の問題もあるかもしれないが、正規雇用でないものは、管理職へ女性がと問われても…（同じ土俵にも立つことができないのに）男女で区別するのではなく、能力のある人を。正規雇用と臨時ではそれ事態で待遇が違うので、回答に困るものもありました。(女性、30代)
- ・男尊女卑があつて50年くらいたないとなくならないと思う。(女性、30代)
- ・男は仕事ができれば有能、女は仕事と家事ができて有能。納得のいかないことも多いが、女がバカなふりをして男を転がしている方がうまくいくことも多いのが現実ですね。(女性、40代)
- ・男女平等とは何を平等にするのか難しい。(特に仕事)ベツトにたとえるなら大きさを同じにするのではなく、心地よさを同じにしてほしい。(女性、50代)
- ・女性が出来た事ややるべき事が増えているのに、年のいった男性が出来た事が少ない。もっと社会に出てほしい。(女性、50代)
- ・男だからとか女だからとか、特に不平等を感じたことがない。(女性、50代)
- ・性別は関係なく一人の人として尊重されることが大切で、またそういう考えを小さい頃から学んだり体験することが大事だと思います。人間は働く動物だということを学び、また、親が当たり前に関わり姿を見て育ちました。(女性、50代)
- ・能力のある人間は男女いずれであれ能力に応じた仕事と報酬を得て然るべきだが、行き過ぎたジェンダーフリー思想は社会を混乱させるだけだろう。(男性、50代)
- ・経済的な自立と本人の自覚が大切だと思う。国会議員始め、世の男性の中に潜む女性蔑視がなくなる限り、共同参画などの言葉だけが浮き上がっている。(女性、60代)
- ・男女が平等な社会を作るには、様々な問題があると思います。手始めに次の漢字を変えましょう。怒る、嫌い、姑、嫁、毒、もっと沢山あると思いますが…(男性、60代)
- ・男女の差はあつて当たり前だと思うときもあります。生まれ持った資質がちがうと思います(すべてではないが)。(女性、60代)
- ・昔人間で義父母の介護をして、女はあまり出しゃばらない方が良いと言われて、何かやろうとしても抵抗あり、ただひたすら農業に励んでいるだけです。
- ・男女平等を与えられるのではなく、自分から努力していく事が大切。(男性、 )

## ○ 仕事と職場環境、制度について

- ・男性、女性に関係なく、一人ひとりが自立した生活ができるよう、家庭内だけでなく公的に子育てや介護を支援するサービスを増やし、“手軽に”利用できるようにしてほしい。フレックスタイム制をはじめ働き方を選べるようになれば、もっと時間を有効に使えるのに…と思う。(女性、20代)
- ・共働きの必要がない、社会にしてほしい。男女関係なく賃金アップ。(男性、30代)
- ・シングルマザーが働きやすい環境を整えて頂きたいです。(女性、30代)
- ・職場環境の改善が急務だと思います。(男性、30代)
- ・男女平等で働いても(仕事は男性並みを求められても)家の事は女性になっている。仕事が忙しすぎて(労基は守られず、長時間労働(サービス残業)や有休取得とかしても放置されている)、子どもどころではない。幸運にも子供ができて、経済的にツライ。現代人は心に余裕がない。(女性、30代)
- ・就労時間の長さが、、、!! (男性、30代)

- ・子どもが生まれる予定。私の会社では育児休業を取るとすると有給プラス特別休暇数日になる。休みにくい。男で取った人はいない。育児休業を取るには会社の理解、環境が必須。(男性、30代)
- ・企業としては急に休まれると仕事がまわらないので、能力は低くても休まない人が重宝されると思う。(女性、40代)
- ・東御市自体も部課長会職に女性が少ない。女性の登用を積極的に推進して手本を示すべきである。(男性、60代)
- ・仕事に対する意欲、個人に対する配慮、感情的など公平性に欠ける。小さい個人の集合体を作る等固まりやすい!!!(男性、60代)

## ○ 仕事と出産、子育てについて

- ・仕事をしたいのですが、面接に行くと子どもの事を聞かれ嫌な顔をされる。結婚してしまった場合、正社員にはなれないのだとあきらめなければいけないのでしょうか。(女性、20代)
- ・働きながら子育てしている先輩を見ていると、本当に大変そう。子供のことで急に仕事を抜け出したり、休んだり。私生活上のことなので企業で行える支援は本当に限られている。働いた給料すべてが保育料になっていること、利用しにくい病児保育等の話を聞くと、私は仕事と育児の両立はできないと思っている。従って自分は子供を産まない選択も考えています。企業とともに市も連携することが必要だと思います。実際に働く人の声や、企業の声をもっともっと聞いてほしい。そして本当に市民が必要とするサービスを推進して頂きたいと願っています。(女性、20代)
- ・自身の子どもをしっかりと自立できる人間、良識のある人に育てようと思ったら、男性と同じように働くとか、フルタイム労働とかは適さないと思っています(子供の事件が増えていることと共働きの親と関係があると思います)。(私は)仕事と生活の調和など、今の日本社会の仕組みでは無理だと思い、結婚を機に正規雇用の仕事をやめます。生活のためにはお金は必要ですが、仕事と生活の両方をバランス良く取ろうと思っても、一般の家庭ではできません。(女性、20代)
- ・男性は働きすぎで、家事・育児に協力する余裕がありません。それでも家にいる時はよくやってくれています。助かることが多いですが、健康が気がかりです。女性は共働きでないと生活に余裕がないので(家のローン、教育、生活費等)働きに出ますが、日中は仕事、家に帰れば家事・育児と目一杯です。「ストレスをためないように」と言われますが、子どもを預けて自分の時間を持つことに後ろめたさを感じてしまい、なかなかストレス発散ができません。祖父母世代はまだ働いていたり、高齢になってきて子供の相手をするのも苦勞になってきたりで、家族だけでは対応できない状況です。社会で支えあうとは言いますが、家事代行サービスや休日保育など、利用することに抵抗を感じてしまったりします。(実際、産後直後に家事代行をお願いしようかと考えましたが、夫にイヤがられました。「自分たちで何とかするしかない」と言われ、サービス利用しませんでした。)まず、毎日の生活の中で、仕事の残業がなくなって、休日がせめて土日の2日間あればと思います。子どもが病気になった時の通院や欠席中の休暇も男女共に取りやすくなるといいです。安静が家庭に目が行くようにするには、仕事(働き方)を見直さないといけない。女性が仕事を安定して続けるには、かぞくの協力やサービスを使いやすくする周囲の理解が必要。(女性、30代)
- ・出産して育児をしている女性は、子どもの病気や用事で会社を休むこともあり、迷惑をかけてはいけないの思いから、職に就かない人もいます。又は、それについて、会社の理解を得にくいのが実際だと思う。社会全体での改革がないと、変わらないと思う。男性も仕事に追われ過ぎている。そうしているのは、「日本全体だし、優良企業はほんの一部でしかない。(女性、30代)
- ・子育てをしている女性は、大変なのにえらいな～とは思いますが。ただその家庭の都合の良いように会社やお店を動かす(他の働いている人に迷惑をかける)のは、仕方ないとはいえ、どうかと思います。それを本人に当然と思わせてしまうのはやりすぎかな…と。お互いが気をつかう必要があると思います。(女性、40代)
- ・今後もさらに“保育サービス”の充実をお願いします。(男性、40代)
- ・子育てしながら働きやすい職場(子が病気の時など、休みやすい)作りができているとありがたい。(女性、40代)
- ・例えば和小学校には「おやじの会」というPTA内での父親が主となり活動している団体があります。普段母親が子供の学校行事への参加を一手に引き受け、仕事を休んで授業参観に出たり… 母親ばかりに社会的負担がかかるイメージになっていますが、この会では父親がどんどん前に出て、いろいろな企画をしたり、PTA作業の全面的協力をしてくれています。PTA作業を男女共に担っているという実感がすごいです。この会ばかりでなく、いろいろな場面、制度の中でもどちらかに負担がかかることのない様に、働きかけていけたらいいのではと思います。(女性、40代)
- ・共働きを進めてばかりいるから、子どもがこわれてきている。まずは子どもを育ててから働けるよう考えた方がいい。(女性、40代)
- ・子育て(保育園の24時間、365日無休保育)事業、介護も同じく。(男性、50代)
- ・生活のためならいざ知らず、自己実現のための仕事などする必要ないと思う。子どもを他人に預けてまで、いらぬストレスを抱えて暮らしているから子どもにしわ寄せがいく。それらが不登校やいじめの原因の一つと思う。人を一人育て上げて社会へ送り出すのは大変なこと。出産、育児は女性の大切な仕事で大きな喜びであると思う。(女性、50代)

- ・女性が社会に出て生きがいや、やる気を見つけても、それを一生涯やり通すことは今の時代無理に思う。子ども、ダンナ、老親が具合が悪くなってしまったら、そんなこと言っていられない。病院や施設に預けて仕事をつづけ、後で後悔することになったりする。自分が今あるのは家族があってこそで、、、。仕事を続けられる女性は何かを犠牲にしていると思う。一線を退いてしまうと今の仕事がなくなってしまう。家族を育てていくのはやはり女性、母性や愛情。でも社会参加はパートやアルバイトになるのかな。(女性、50代)
- ・妊婦や子育て中の若い母親たちには、あせらず充実した子育てができるように望みたい。子供達のためにも、両親と過ごす時間は大変大切なものですし、満たされた幸福な家庭生活が送れ、健やかに子供達が心も身体も育ってゆくことを願っている。(女性、60代)
- ・女性が仕事(勤務)するようになってからまだ半世紀も立っていない。子育てをしながら同じように勤務するには無理が生じる。食育は買育になり、お金と交換にもので心を埋めている。車の送迎で体力低下。子ども達は心が貧しいと思う。(女性、60代)

## ○ 家庭と家事、介護あるいは地域社会について

- ・地域の活動(区の集いなど) 女性がほとんど参加していない感じです。女性同士のつながりも薄い。(女性、50代)
- ・まずは家庭、家族の中で話し合う。各々の相手への理解をする気持ちが大切です。(男性、60代)
- ・高齢化社会になり、自分も年をとり、親の介護などもっと自然に関わって仕事が続けられる社会を望みます。(負担が多くなりやすい)(女性、60代)
- ・実力により、女性も職場生活を充実させたい。しかし子どもや家庭の事が沢山ある。現代は親とは同居したくない。年寄りはどうにか役立ち、孫をみたり、家庭の事も協力できる。祖父母を嫌わず話し合い、理解し合い、協力すれば若い人たちも安心して働けるのに、今は根本が崩れている。世の中、勝手過ぎて自分を追いつめてしまふ難あり。(女性、70代以上)
- ・自治会の諸活動はほとんどという程男性で構成されている。能力のある女性がいるのに、社会通念や慣習等から女性が出ない事が当たり前と考えている。(男性、70代以上)

## ○ その他(市への要望、アンケートについて等)

- ・市民税が高く、市民のために使用されていないと感じます。(男性、20代)
- ・最近夢を持たない人が多い気がします。それは生まれた時に親が子を否定してしまうからだと思う。女は結婚がイコールではなく、夢を追って叶える事も素晴らしい事だと思う。(女性、20代)
- ・生活に余裕のある方々以外は無関係な事だと、今回のアンケートで凡そ解った。(男性、20代)
- ・この文章全体がまだ男女共同参画への理解不足だと感じる。都市部ではもう少し違った文章での聞き方で、この地域はまだまだ昔ながらの考えが強いんだと感じた。(女性、30代)
- ・市でこのような課や係があることを全く知りませんでした。突然アンケートがくるのでよくわからず、回答していません。まずは市民へのアピール、周知が必要ではないでしょうか。(女性、40代)
- ・今回のアンケートは設問ならびに選択肢に意図的な誘導をうながすものがあると思われ、回答結果の精度が疑わしく感じられます。自由回答が無記入になるのはわかりますが、本音にせまられるのか、もう一度よく推敲してください。(男性、40代)
- ・アンケートを取るにも税金はかかります。しょっちゅうアンケートが来ますがうんざりです。アンケートにかかるお金を他の経済的に困っている人たちの為に使ってください。アンケート不要です。(女性、40代)
- ・以前(15年以上前)男女共同参画に関与していましたが、内容の貧弱さに失望し辞めてしまいました。一部の決まった人たちだけの会議も全く意味がないと思います。今はどうでしょう。市民をどのくらい巻き込めていますか？(女性、50代)
- ・東京から長野に来てから「男女共同参画」の言葉を初めて聞いた。このアンケートの内容も都心から比較すると10年以上遅れていると感じます。年配男性の意識が特に低いと思っています。(男性、50代)
- ・市の広報でのみ目にする言葉という印象が強い。公務員、教師のOB・OGの集まりみたいに感じます。(女性、50代)
- ・私自身、心の病気で苦しんでいます。外見ではわかりませんが、、、。だからこそ、外の人から見たら、主婦、働いていないことが引け目になっています。このアンケートもストレスを感じます。(女性、50代)
- ・担当者のやる気しだい。一人ひとりに上記の内容を本当に本気で取り組もうとしているなら、市民は理解するはず。理解させようとする行政の姿勢がない。どうでもよいという意識がある。公務員は仕事をしなくても自分は困らないという人が何人かいる。だから情報が伝わらない。伝えようとしていない。(女性、60代)
- ・若いときからの参加できることが大切だが、学ぶ機会が少ないと思う。もっと若い方にアンケートをした方が役に立つと思う。(女性、60代)
- ・自分は結婚していないこと、高齢、身体が不自由なため回答できない項目がありました。(女性、70代以上)

- ・ 年齢を考慮して意識調査の書類を送付してほしい。考えることが苦手になりました。(女性、70代以上)
- ・ 老人のため思い出して若い時の思いで記入しました。(男性、70代以上)
- ・ 夫婦二人で行っている小さな店には男女共同参画だとかワークライフバランスなどという言葉は通用しません。この調査は、あくまでお勤めの方を対象にしたものですよね。お勤めの方が多いから仕方ないと思いますが。(女性、70代以上)